

S

17-12 N. 69

16.15, 36

190-177

機密 第五七九號

昭和二年九月二十六日

在天津

總領事代理

岡本

一

外務大臣男爵 田中 義一 殿

孫傳芳ノ時局談報告ノ件

過般晉京シ去ル二十二日來津シタル孫傳芳トハ小官昨夏赴京ノ際面
晤シタルコトアルヲ以テ昨二十四日往訪シタル處大要左ノ通り時
局ニ就キ語レリ

右ハ何等取立テテ報告ノ價值ナキモ向人ノ國錫山親政ニ對唐生智閣

第一課甲

昭和二年九月四日

收



在天津日本總領事館



31530

0213

係ノ一端ヲ知ルト共ニ孫亦曾ツテ張志潭ノ小官ニ附レル如ク或ハ
錫山、唐生智ト稱シテ自己進命ノ開拓ヲ圖ルノ意思アルニ非ズヤト
思料セラルルヲ以テ御參考迄ニ報告ス

「今回晉京ノ目的ハ親シク張大元帥ニ面會シテ今後ノ方針ヲ協議シ
且援助ヲ求ムルニアツタカ大元帥ハ欣然自分ノ要求ヲ容レ小銃一
萬挺彈丸二百萬發ノ供給ヲ受ケルコトニナツタ

「目下浦口方面ニ於テハ何等戰局ノ發展ヲ見ナイ東方靖江浦方面ニ
於テ南軍力進出シテ來タト言ツテ居ルカ彼等ハ地方ノ土匪軍ニ過
キナイノデアツテ何等南軍ト關係ハナイ自分トシテハ勿論戰ヲ好
ムモノヲナイ出來ルナラハ唐生智ト妥協シテ何等カ局面ノ展開ヲ
策シタイト思ツテ同人トノ聯絡ニ努力シテ居ル從ツテ當分積極的

態度ニ出ナイコトニシテ濟南ニ止ツテ居ル積リテアル

一 山西ノ國錫山トハ日本ノ士官學校同期出身テアツテ自分ハ顧ル所
無ニシテ居ツタカラ常ニ聯絡ヲ取り交數ヲ續ケテ居ルカ彼ハ本來
大人物テナク特ニ決斷力ニ缺ケ從ツテ環境ニ依ツテ屢々主義主張
ヲ曲ケ態度ヲ豹變セシムルノハ遺憾ニ堪エナイ

一 各軍閥何レモ傑出シタル者無ク互ニ他ヲ排擠シテ一身一家ノ利害
ノミヲ顧念シ國家民生ヲ念フモノナキ現状ニ於テ何レノ日ニ平和
ヲ招來シ得ルカ實ニ寒心ニ堪エナイ自分ハ民國以來ノ第一人者ト
ル袁世凱ノ如キ大人物ノ出現ヲ圖ツテ縱令一時ハ相當ノ犧牲ヲ拂
ツテモ武斷的壓制政治ヲ以テ全國ヲ統一スルノ日カ來ナケレハ終
日タト思ツテ居ルカ自分ノ此希望モ茲ニ二個年後ニハ達成スル時哉

カネルタロウト思ツテ居ル

「新舊艦カ各方面ノ軍國其他ヲ糾合シテ大同團結ヲナサシメ國家ヲ
彼ノ所屬一會社ノ如キモノタラシムルト云フ計畫ニ就テハ自分ニ
對シテモ勸説ヲ試ミタカ勿論之ニ對シテ反對ヲ稱フヘキ限リテハ
ナイカラ實意ハ表シテ置イタ然レモ南沙上横斷等ヲツテ實現セシ
メルコトハ不可能タ

本館寫送付先 在支公使、奉天、濟南、上海、漢口各總領事

亞細亞局長



分類 10.15.1-2

送第 7885-7899 冊 戸

2年10月9日 時6時30分發

電信課長

主管 情報部長

主任 第一課長

(起草 昭和二年九月廿九日)

(原稿用紙中)

件

支那時局關スル件

宛

在英、在米、及在伯各大使、
在滿洲及在新嘉坡各總領事

平

合

第

二

〇

號

「支那情報」

一、蔣介石ノ下野ニ依リ促進セラレタル武漢南京兩派ノ合同問題ハ、

當初ハ南京側ノ武漢側ニ對スル屈服トナルヤニ見受ケラレシメ

後形勢變化シ武漢派モ勢ヒ妥協的態度ニ出ツルノ止ムナキニ

込 支那時局
國民軍ノ北伐關係

田中大臣

10.3

南京、武漢及西山三派略々對等ノ形ニテ合同スルコトナリ

銘ハ合同成レルヲ期トシテ下野シ

期テ南京ニテ九月十五日臨時中央執監會議開カレ新ニ三十二名ノ中

央特別委員會ヲ組織シ之ヲシテ第三次全國代表大會迄中央執行委員

會ノ職權ヲ代行セシムルコトヲ決議ス 次テ十六日及十七日ノ中

央特別委員會ニ於テ中央黨部及國民政府ノ組織ヲ定メ政務委員

民以下四十二人及軍事委員蔣介石以下六十三人ヲ選任シ

國民黨ノ大合同ハ形式的ニハ成功シタルモ

(右委員中軍と名義ヲ違ふるは偽なりと云ふ)

キ首腦者無キ爲國民政府ノ前途ハ樂觀シ得サル次第ナリ

府ハ二十三日、北伐ノ繼續、不平等條約ノ排除、共產黨ノ肅正等一

般方針ニ關スル宣言書ヲ發表シタリ。

二、~~山東~~孫傳芳ハ江北一帯ヲ席捲シタル勢ヲ以テ南京下

移ミ江ヲ渡リ

南京ニ迫リタル處、八月二十六日却テ南京派軍隊ノ

撃退セラレ捕虜一萬以上ニ及ビ蚌埠方面ニ退却シ南軍ハ之ヲ追

(原稿用紙乙)

逐次渡江シ南^州附近ニ達セリ。其後兩軍共積極的行動ニ出ツルヲ困難トスル狀態ニ在リ。最近縣ハ北京ニ赴キテ張作霖ニ援助ヲ求メ所^ノタリ。

三、北京ニ於ケル奉天派ハ山西閻錫山ノ間ニ於テ先般來^ル玉祥ニ

對スル策戰上了解試ミ^テタルモ成ラス。閻ノ^ハ軍隊ハ京漢線石家

莊附近ヲ扼シツツアル^ハ、最近高震軍張家口方面ニ進

四、馮玉祥ハ依然^ハ海沿線ヲ根據トシ東ハ歸德ニ於テ山東軍ニ對

シツツアリ。最近馮ハ郾城ニ在リシ新軍ヲト降ヲ生シタルモ之ヲ破
リ河南ノ京漢沿線ヲ其ノ手ニ收メタリ。

五、唐生智ハ九江會議出府後安徽ニ於ケル部下ノ軍隊督戰ニ赴キタ
三六八團は党合同豫備

ルカ九月十三日急遽武漢ニ歸リ兩湖ヲ中心トスル地盤確保ニ力メツ

ツアリ。最近唐ハ南京ニ於ケル將領ト快カラサルモノノ如ク九月二

十一日武漢ニ政治分會ヲ設ケタル事モ道間ノ消息ヲ語ルモノト

ラル。

六、義ニ江西省ニ於テ武漢派ニ對シ兵變ヲ起シタル葉挺、賀龍ノ共
産軍ハ九月二十四日汕頭、潮州ヲ占領シ廣東側ハ軍ヲ同方面ニ派シ
對抗中。

七、滿洲ニ於ケル排日運動ハ北京政府ノ命令ニヨリ表面上一應終熄
シタルモ各地ニ於ケル排日ノ暗流ハ未タ全ク消滅スルニ至ラス尙ホ
奉天省長莫ハ今般北京農工總長ニ轉任シ現農工總長劉尚清奉天省長
ニ任セララルコトナレリ。

電信寫

(分類 46. 1. 5. 1-2)

國共
孔光

昭和2 一三二〇三

略

長沙
本省

十月四日附着

亞

田中外務大臣

第四七號

唐生智ハ軍隊ノ檢閲ヲ表面ノ理由トシテ漢口ヨリ二十六日歸長シ
タルカ時局ニ對スル唐ノ態度ニ關シ當地要人間ニ傳ヘラルル處並
ニ唐カ一日本官ニ語リタル處ヲ綜合スルニ南京派ハ過般孫軍南下
ノ際顯ニ唐ノ救援ヲ求メ南京出動方ヲ促シ乍ラ一旦危瀕去ルヤ忽
チ之カ阻止ヲ計リタルハ不誠意モ甚シ今又南京ニ於テ第四次中央
執行委員會ヲ開カスシテ特別委員會ヲ開催シタルハ違法ニシテ總
テ之ニ依リ成立シタル政府ハ承認シ難キモ現在ノ時局ニ鑑ミ事

記録件名

支那内亂關係一件
湖南(劉)張軍北伐關係

上ノ政府トシテ暫ク反對セス中央政府南京移轉ニ伴ヒ設立シタル
武漢政治分會ハ最モ會法ノ機關ナルヲ以テ湖南ノ政治軍事及黨派
ハ同會ニ依リテ指導セラル可シ南京派トノ關係右ノ如キヲ以テ唐
ハ密ニ奉天派ト接近シ馮玉祥トハ當分從來ノ關係ヲ保持シ今後ノ形
勢ニ依リ處置ス可シ機ニ湖南ニ於テ共產黨ヲ利用シタルハ自己不
明ノ致ス處ニシテ雖チ同志ニ謝シ益々共產分子ノ撲滅ニ勢力ス可
ク黨國兩事カ在留民無キ富地ニ駐在スルハ共產黨ノ機關トシテ活
動スルモノナルハ疑無キニ依リ同領事ノ退去ヲ求ムル意向ナリ
要之唐ハ南京派トノ關係ハ湖南ノ事情ニ順シ先ツ此際權力用開始
ノ自家勢力圈内ノ結束ヲ圖ノ時局ノ推移ニ依リテハ或ハ南京派ト
公然分離スルヤモ計ラレス今則ノ時長モ其趣旨ヲ部下ニ徹底セシ

ノントスルニ在リ唐ニシテ現在ノ勢力ヲ維持スル限リ當方面現下
ノ小敵狀態ヲ持續シ得可キカ富強ニ於テハ唐ノ人格ト約變常無キ
態度ニ對シ非難スル者多シ尙唐ハ數日中ニ漢口ニ引返ス管
北京へ轉電シ上海、漢口、南京、廣東、九江へ暗送セリ

電信課長

主 情報部長

任 主

(昭和二年十月十一日)

(原稿用紙甲) 四

件 支那時局ニ關スル件

名 込 録

在英、在米及在伯各大使
在浦鹽及在新嘉坡各總領事

發 出 中 大 臣

平 第 二 二 五 號

【支那情報】

最近奉天派カ山西派ノ買約セル兵器、自動車等ヲ天津ニテ抑留シ

又張學良、于珍等ヲシテ京漢、京綏沿線ノ軍隊檢閲ヲ爲サシメタ

ルコトハ山西側ヲシテ著シク不安ヲ感セシメ建ニ山西側ハ奉天側

電送第 8/31-40-11 平

二年十月十二日 六時五分

電 信 案



161530

0231



ノ準備成ラサルニ先チ之ト開戦スルニ決シ大同ニテ于珍等ヲ拘禁
スルト共ニ^新張ノ綏遠軍ハ張家口西方ニ於テ鐵道ヲ破壞シ九月三
十日柴溝堡附近ニ於テ兩軍ノ間ニ交戦ヲ見ルニ至レルカ形勢奉天
軍(熱河及察哈爾軍)ニ不利トナリ山西軍ハ十月四日張家口ニ入
リ次テ宣化ヲ占領セリ依テ奉天軍ハ最近張作相ヲ北路總司令トシ
京漢線方面ヨリ吉林軍ヲ此方面ニ移シ懷來附近ニ主力ヲ集中シ防
禦ノ配備ヲ爲セリ一方京漢線方面ニテハ孫楚ノ率ユル山西軍ハ

家莊ヨリ北上ノ姿勢ニ在リ奉天軍ハ（第三第四方面軍及張金純軍
ヲ主力トス）張學良ヲ總司令トシ總司令部ヲ保定ニ前線ノ主力ヲ

新^案最、定^案縣附近ニ置キ山西軍ヲ進撃セムトシツツアリ

（國民黨合同後浙江派（蔣介石系）何應欽ノ態度ハ注意セラレ居タ
リシカ何ハ周鳳岐ニ代リテ浙江省政府首席ノ職ニ就キタルモ愈ニ
獨立行動ニ出ツル氣配ナシ

武漢ニハ反南京政府熱依然熾ニテ武漢派劉興ノ軍ハ九月末爲期

近ニ於テ南京派軍隊ト衝突ノ危険アリタルモ未タ衝突ノ狀態ニ至
ラス尙汪兆銘ハ九月下旬武漢ニ赴キタルカ最近廬山ニ許崇智、孫
科、伍朝樞等南京政府側要人ノ來訪ヲ受ケ協議ノ上更ニ漢口ニ向
ヘリ右ハ漢事合作ノ爲唐生智ト懇談スル爲ナリト傳ヘラル
ニ異ニ江西ヨリ南下セル張發奎部下ノ軍ハ其後陸續トシテ廣東ニ
入り張發奎モ九月二十七日香港ヨリ廣東ニ入りタリ今日ノ處ニテ
ハ表面上ハ張ハ李濟派ト行動ヲ共ニシ居レリ尙油頭ノ共産軍ハ

細雄等ノ廣東軍ノ爲驅逐セラレ汕頭ハ十月二日廣東軍ノ手ニ復シ

タリ

蔣介石ハ九月二十九日長崎ニ渡來シ近ク入京ノ豫定ナリ

電信寫

(分類 A6.15.1-2)



附和2 一三八四三 暗

田中外務大臣

第五七九號

宜昌發外務大臣宛電報

第六〇號

第十六軍ノ兵千五百宜昌ヨリ汽船ニテ十八日午後當港着着當機ニ於
クヘク汽船二隻ヲ準備シアリ

北京へ轉電セリ

漢口 本省

十月廿日後着

高尾總領事

亞

記録件名支那内乱關係一件

國民陣營支那内乱關係

電信寫

(分類-41.15.1-2)



一三九八二 略

漢口
本省

十月廿五日 前着

田中外務大臣

第五八九號

宜昌發貴大臣宛電報

第六一號

當地第二軍幹部將校逃ノ家族下江スルモノ多キト報、手
ブレノ買上ケ等ニテ第二軍移動ノ噂アリ

北京、滬電セリ

記錄件老支那内乱關係一件

高尾總領事

電信寫



(分類 A61.51-2)

昭和2 一四〇〇八 略

漢口 本署 十月廿六日前着

田中外務大臣

第五九一號

宜昌發賣大臣宛電報第六三號

往電第六二號ニ關シ

廿四日軍部ハ宜昌港碇泊汽船ノ出港ヲ差止メタリ (日清大商ハ關シ)

サル

北京ニ轉電セリ

記錄件名

支那内亂軍情
及民衆ノ支那軍情

五

高尾總領事

五

支那 84435
 支那 8444
 支那 10月26日 乙種0分發

支那 84435

電信局

電信室

主 情報部 支那

任 主

昭和二年十月三十一日

支那

件 支那時局ニ關スル件

名 込 額

在英、在米、在伯各大使
 在浦潮、及在新嘉坡各總領事

田 中 大 臣

平 合 第二三四號

「支那情報」

一、奉天、山西戰爭ハ其後奉天軍ニ著シク有利ノ形勢トナレリ。即チ

京漢線方面ニ於テハ奉天軍ハ本月八日頃ヨリ攻勢ニ轉シ左列ノ如ク

興陽軍ハ勇攻ニ山西軍ノ側面ヲ襲撃シタル事山西軍將次不敵トシ

リ定縣、新樂等ヲ捨テ西南方ニ退却シ石家莊モ十六日奉天軍ノ占領スル所トナリ、目下山西軍ハ平山、阜平及懷慶附近ニ於テ防禦中ナリ。又京綏線方面ニテモ奉天軍ハ十五日張家口ヲ回復シ山西軍ハ柴溝堡、懷安方面ニ退却シタリ。但シ最近右兩方面トモ戰局ニ涉シキ變化ヲ見ス。尙義ニ山西軍ノ小部隊ニシテ北京附近ノ門頭溝ニ現ハレタルモノハ直ニ擊退セラレシモ山西ノ別部隊ハ十一日突如涿州城ヲ占領シ奉天軍ニ對シ尙抵抗ヲ續ケ居レリ。

二、山東軍ハ褚玉璞ヲ總司令トシ奉天軍ト策應シ龍海線ニ沿ヒ馬玉

祥軍ニ對シ攻撃ヲ開始セルカ此方面ニ於テモ山東軍有利ノ模様ニ

テ十國日歸德ヲ占領シ更ニ西進中ナリ。

三、津浦線方面ニテハ孫傳芳軍ハ其後動カス。又南京政府ハ義ニ山

西派應援ノ爲北伐軍ノ出動命令ヲ發シタルモ概ネ氣勢ニ止マレル

カ如シ。

四、南方ニ於テハ武漢會議ノ結果或ハ南京武漢間派ノ妥協案ヲ示シ

モ認メラレタルカ、其後形勢急變シ十月二十日南京政府ハ唐生智
カ張作霖ト結ヒタルヲ理由トシテ之カ討伐令ヲ發スルニ至リ、兩
軍ハ早クモ蕪湖附近ニ於テ衝突シ武漢側劉興ノ軍ハ南京側陳調元
程潛等ノ軍ノ壓迫ヲ受ケ安慶方面ニ退却シタリ。

五、曩ニ南京政府ノ諒解ノ下ニ江西省ヨリ福建省ニ入りタル蔣光鼐
(革命第十一軍團軍長)ハ部下軍隊ヲ率キ十月十日福州ニ入り次
テ海軍側ト連絡シテ「クーデスター」ヲ行ヒ從來ノ實權者陳炯明

ヲ選ヒタリ。

電
報
集

外

電信寫

(分類 16.15.1)2

昭和2 一四二二七 略

漢口 本省

田中外務大臣

第五九四號

宜昌發貴大臣宛電報

第六五號

第二軍ハ往電合第三號ノ通單備ヲ盤ヘテ下江ノ氣勢ヲ示スモ肉實
出發躊躇ノ色アリ揚森トノ聯絡モ當分成ラス孤立無援ノ姿ニ見受
ケラル

在支公使へ轉電セリ

記録件名 支那内乱關係一件

十月廿八日附着

高尾總領事

4
2

(分類 6.1.5.1-2)

昭和2 一四一五〇 晴

本署 十月廿八日發替

閣中外務大臣

第五九六號

沙市本官署電報

第二號

廿六日午後發當地駐留第二軍十三師八營支隊汽船會社代發多哥銀
在泊汽船二船港停止多哥銀

宜昌沙市方面二船屯スル第二軍八師八軍ト意見一致セテ離屬下從
方面ニ發送セラレ第八軍ト聯絡アル機率軍ハ其後多遠ニ當方面ニ
進出シ來ルヘシト傳ヘラレ
宜昌ヘ轉電セリ

記録件名

主観内紅閣傳一件

別件(可成軍)北成閣傳(2)



高尾總領事

電信寫

(分類 16.1.5.1-2)

秋

昭和2 一四二五二 時

満口 本省 十月廿一日 晴

田内 外務大臣

第六〇一號

宜昌發賣大臣宛電報

第六六號

馮玉祥ト聯絡アリトノ説アリタル第二軍ハ陽春ニ宜昌ヲ圍ミタル
由ニテ三十日朝ヨリ續々當陽街道ヘ進發中ナリ

外務大臣、在支公使ヘ轉電アリタシ

重慶ヘ轉電セリ

6

高尾總領事

記録件名 支那内乱関係事件

一

電信寫

(分類 46.1.5, 1-2)

和 2 一四二六一

晴

漢口
本省

十一月一日前發

田中外務大臣

第五九九號

沙市發本官宛電報

高麗總領事

昨夜半當地第二軍十三師ハ一兵ヲ止メス陸路宜昌ヘ向ケ引揚ケタ
リ漢口方面ヨリ第八軍討伐軍兩航シ監利郝穴方面ヘ進シ居ルニ依
ルト云フ

當地無政治狀態トナリ依テ在宜昌勢多義長ニ對シ軍國急派方御取
計アリタシ第二軍ハ一先ツ全力ヲ宜昌ニ集中シタル上同地ノ第十
六軍(貴州軍)ト協同シ第八軍ハ楊森軍ト聯合シテ(レヤカニニ

記録
支那の紅雲保一件
盟國民軍ノ北伐關係

戦斷開始セラルヘク楊森軍ハ宜昌ヲ距ル九十支點ニ迫レリト傳ヘ
ラル

外務大臣、北京へ電アリタシ

宜昌へ電アリ

電信寫

(分類ノ人ノ一ニ)



昭和二年一月二日

晴

漢口 本省

十月廿一日後發

高尾總領事

軍事外務大臣



日本軍政府

二十日午後八時、少佐藤田九ノ報告ニ依リハ、陸軍ノ討伐隊ハ招

集、漢口江岸江大橋平三連及民衆反逆ニ分乗軍艦モ、江口ニ設衛

ス。レ、漢江一帯ハ二十八日午後一時、監利縣上流ニテ、陸隊陸運軍

ニ、漢口モ、漢江一帯ハ二十八日午後一時、監利縣上流ニテ、陸隊陸運軍

右ニ據レハ、八軍ノ入涉ハ三十一日午後ト想像セラル。怡和汽船昌利

號入港直ニ、漢江相九ハ三十一日朝、漢江ノ係定

外務大臣、在支公使ヘ電報アリタシ

記
支那の状況
利便(國威軍、北伐軍線)



161530

0249

電信寫

(分類 1 / 1 / 5 / 1)

昭和2 一四四〇一 暗

漢口 本省

十一月三日後着

亞

田中外務大臣

第六〇八號

宜昌發本官宛電報第七七號

外務大臣、在支公使へ轉電アリタシ

第二軍副軍長ハ往電第六六號同様ノ道ヲ取り三十一日出發シ第十

六軍第四師ノ一團同日午後上游ヨリ汽船ニテ到着セリ張副軍長ハ

出發ニ臨ミ後ヲ心配セル商務代表ニ對シ宜昌市ハ第十六軍第二

十軍ニ委ネ我軍ハ戰闘ヲ避ケ安全ニ南京軍ニ合スル途ヲ搜スヲ以

テ足レリトスル旨答ヘタル趣ナリ

記録係名

支那内

務関係

一件

係

も

高尾總領事

電信寫

(分類 46. 1. 5. 1-2)

昭和2 一四三九二 略

本省 長沙

十一月三日後着

亞

田中外務大臣

第五三號



湘谷領事

最近當地ニ於テハ唐生智カ馮玉祥及ヒ朱培德ヨリ下野ノ勸告ヲ受
ケ其ノ進退ニ付省政府腹心ノ者ニ密カニ電報ヲ寄セタル趣噂セラ
レ居ル處目下湖南ハ江西ノ宋ノ表面的中立ヲ除キ四面楚歌ノ中ニ
在リ殊ニ最モ苦手トスル廣東李濟軍將ニ湖南ニ進出セントシ加
フルニ省内軍隊ハ殆ト湖北方面ニ出拂ヒ防備頗ル手薄ナルニ鑑ミ
唐ノ下野說モ強チ虛電ノミトハ信セラレサル節有ル處右ニ付唐ノ
信任厚キ

尹咸

カ二日本官ヲ來訪シタルニ依リ夫レト無ク

記録簿之ヲ那ハレ開件一件
別冊一冊及ビ此ハ係属ナシ



161530

0251



開闢シタルニ
ハ金銀石ノ事買テ否定シ尤モ懸念セル事ノ
選出ノ期々モ汪精衛既ニ廣東ニ到着シ唐李閻晏協成立シ粵省軍
ノ撤退ヲ開始シ居ル儘ニテ湖南ハ當分調停起ルヘシト思ハレスト
語レルカ此際彼ハ汪精衛ノ廣東行ノ使命ニ異及シ汪今度ノ歸海ハ
李ト其ニ中央政府ヲ廣東ニ設立セントスルニアリト西ヲ告
北京ノ消息ハ轉達シ上海ニ到リ九江ニ暗送セリ

電送第 8919-8968 號

22 11 15 21 45 32

村松

正任司令長



電信課長

主 情報部長

主 任情報部第一課長

昭和

(昭和二十一年十一月十一日)

(原稿用紙甲)

件

支那時局ニ關スル件

在英、在米、在伯各大使

在浦潮、及在新加坡各總領事

平 助

合 第 二 四 三 號

「支那情報」

一、本會戰爭ハ其後本大軍ニ益々有利ニシテ京綏線方面ニテハ奉天

ハ十一月三日大同及懷仁ヲ九日綏遠ヲ占領シ山西軍ハ雁門關方面ニ

却ヤリ。正太線方面ニ於テハ山西軍ハ尙獲鹿附近ヲ維持シ居レル

天軍ハ阜平及靈邱方面ヨリモ山西首ニ侵入ヲ企テツツアリ。目下ノ
處兩軍妥協ノ模様ナシ。

二、**隴** 海線ニ沿ヒ鄭玉蚌軍ヲ追ヒテ西進ヤル山東軍ハ一旦開封ヲ占

領シタルカ十月三十日ヨリ馮軍ノ逆襲ニ會ヒ且退路ヲ斷タレタル爲

大敗シ鄭軍ハ曹縣、**碭山**（徐州ノ西方）方面ニ退却シ、張宗昌ハ

現ニ**兗州**ニ赴キテ**（濟寧附近）** 陣容立直ニ努メツツアリ。

三、津浦線方面ニテハ南京軍ハ何應欽・指揮ノ下ニ馮軍ニ策應ヲ十

一月八日頃ヨリ孫傳芳軍ニ對シ明光附近ニ於テ進撃ヲ開始セリ。

四、南京、武漢兩派ノ抗爭ハ南京派ノ勝利トナレリ。武漢派ノ何健

及劉興ノ軍ハ十月末ヨリ李宗仁及程潛ノ率ユル南京軍ノ壓迫ヲ受ケ

安徽省ヨリ湖北省境ニ向ケ退却ヲ續ケ、又江西ノ朱培德ハ早くモ南

京派ニ加擔ノ意思ヲ表明シ十一月八日頃ニハ南京軍ハ武穴、瑞昌、

武寧ノ線迄前進シ一方湖南及楊子江上流方面ノ形勢モ武漢派ニ有利

カラリルモノノ如ク唐生智ハ遂ニ十一月十二日失脚シ武漢ヲ去ルニ

至レリ。

江、汪兆銘ハ張發奎等ノ歓迎ヲ受ケ十月二十九日廣東ニ入リシカ其
後第四次中央執監全体會議ノ開催ニ關シ南京側ト交渉ヲ重ネツツア
ルヤニ傳ヘラル。

六、**豫**テ日本ニ來近中ナリシ蔣介石ハ十一月十日上海帰歸レリ。

電信寫

(分類 46. 1.5.1-2)

附 2 一四九〇七 略

重慶 本省

十一月十七日前着

亞

田中外務大臣

後繼領事代理

第二七號

萬縣ヨリノ情報ニ依レハ

楊森ハ魯滄平李曉炎方本仁等ト聯合シ茲一週間内ニ軍隊ヲ湖北ニ
進メ唐生智討伐ノ通電ヲ發シ武漢ニ進發スヘシト尙出動部隊ハ六

七、八、九、十ノ五個師團兵力約二萬ノ豫定ナリ吳佩孚ハ直接關

係ナキカ如シ

北京、天津、上海、漢口、濟南、奉天、長沙、宜昌、沙市、南京
へ轉電セリ

記錄
支那内亂關係一件
列州一國民軍近伐關係



161530

0257



支那内務部

支那内務部
副長官

昭和二年十一月十九日

奉天公所長 録田 彌助

報 報 長 殿



送付先
副長官 齊藤 雄事 支社長 藤村 勘次郎 昭南 實事 務所 長
谷公所長 奉天 長春 順德 開原 地方事務所 長

奉天政務事ノ状況

奉天政務事ニ就テハ奉天情報第一三九號ヲ以テ報告シ置キタルカ
一 奉天地方ニ於テハ奉天情報第一三九號ヲ以テ報告シ置キタルカ
二 奉天地方ニ於テハ奉天情報第一三九號ヲ以テ報告シ置キタルカ
三 奉天地方ニ於テハ奉天情報第一三九號ヲ以テ報告シ置キタルカ
四 奉天地方ニ於テハ奉天情報第一三九號ヲ以テ報告シ置キタルカ
五 奉天地方ニ於テハ奉天情報第一三九號ヲ以テ報告シ置キタルカ
六 奉天地方ニ於テハ奉天情報第一三九號ヲ以テ報告シ置キタルカ
七 奉天地方ニ於テハ奉天情報第一三九號ヲ以テ報告シ置キタルカ
八 奉天地方ニ於テハ奉天情報第一三九號ヲ以テ報告シ置キタルカ
九 奉天地方ニ於テハ奉天情報第一三九號ヲ以テ報告シ置キタルカ
十 奉天地方ニ於テハ奉天情報第一三九號ヲ以テ報告シ置キタルカ

分類 1615-1-2



161530

0258

サル以テナリ、然レテ軍州城ハ軍軍散失ノ敗事ニ依リ城ノ東
 門ノ角ハ二百五十米ニ至ツテ半壊シ城中ノ街路ニ住民
 死傷多クシテ散置サレテ、惨狀當面ニ絶ス

以上ノ敗事使用ノ總數ハ左ノ如シ

ソルツブ野砲	六門	三人式野砲	八門
山砲	三門	十センチ中加農砲	五門
十五厘米榴彈砲	一〇門	七、七換太利野砲	八門

以上ノ門城大和野砲八門ハ保管ノ不良ニ依リ破損シ全部使用ニ
 堪ヘス

當今日迄軍軍 城城敗事ニ費セシ軍費、彈丸一萬六千發其他ノ費用
 ヲ合算シ、城城大和野砲百萬元ニ達スト稱セラル

以上ノ如ク城城ハ敗事ノ敗事手段ニテハ之ヲ陥落セシムルコト固
 難ナルヘシト見地ヨリ兵工廠、砲台、技術師、國人「ダレレー」フセ
 ナ、瓦新ヲ使用セシメントスルニ至レリ、但シ石、瓦新ハ生命ニ
 危險ナク唯、砲台ヲ出サスルモノニシテ砲臺中ニ充填シ之ヲ
 射撃スルモノナリト。云々

(了)

(分類 46.1.5.1-2)

昭和 一五〇五五

略

重慶 本省

十一月廿日後着

田中外務大臣

第二八號 (延着)

楊森 (第二〇軍長) 魯滌平 (第二軍長) 李曉英 (第一六軍長) ハ

選名ヲ以テ唐生智討伐ノ通電ヲ發シ楊森ノ四川軍ハ續々宜昌方面

ニ向ケ出動ヲ開始セリ

在支公使、上海、漢口、長沙へ轉電セリ



後藤領事代理

要

支那内亂關係一冊
別冊(國策)年止後同巻)

電信寫

(分類)



昭和二十一年一月一日

決口 本省 十一月廿四日發

亞

田中外務大臣

高尾松樹

田次大臣

田清和

第八回

二十日午後三時發

田次大臣
田清和
田次大臣
田清和
田次大臣
田清和
田次大臣
田清和
田次大臣
田清和



161530

0261



極

秘

(分類 16. 15. 17)

亞細亞局長

奉天特報第七號

昭和二年十一月二十四日

奉天公所長 鎌田彌助

情報課長 致

寫送付先 副社長 齋藤理事 廣務部長 支社長

奉天ニ於ケル便衣隊取替情況

便衣隊潛入ノ噂ニ關シ奉天特報第六號ヲ以テ報告シ置
キタルガ湯佐輔ハ更ニ一昨昨二日滿洲上將軍公署ニ於
テ吳督辦及日藏參謀長ト會見スルニ方針ヲ決定シ今後
吳督辦ノ軍隊ニテ極力換替ニ努ムルコトヲレリ之ヲ
リ先キ憲兵司令官警務部長警務廳長高坪警務局長橋本
長等モ亦軍警聯合辦公處ニ省長公署ノ隣ニ開設シ委員長

り

有蘭州鐵道株式會社

S

161530

0262

文部省
國文部
北代平
係

(分類 115. 1-2)

昭 2 一五二八八 略

漢口 本省 十一月廿六日後着

亞

田中外務大臣

高尾總領事

第六三九號

宜昌發本官宛電報

外務大臣ニ轉電アリタシ

劉玉春ト並ヒ元第八師ニ旅長タリシ張福臣ハ川鄂邊防第七師長ノ

肩書ニテ楊森ト共ニ來セルカ同人ノ内話ニ依レハ河南ニ散在ス

ル吳佩孚ノ舊部下約二旅近々當地ニ來ルヘキ豫定ニテ其ノ先發部

隊一兩ハ既ニ當地東北六十里リユウセンホニ着セリ之ヲ引繼メ當

地ニテ養ヒ得ルカ政府ニ招クヘキカニ關スル要件カ自分今回來宜

記錄件名

五那河(余)一併

主(余)出(余)一併

ノ主要任務ナリ云々
在支公使へ轉電セリ



161530

0265

(分類 A. 6. 15. 1-2)



昭和2 一五四八一 暗

長沙 本省

十二月二日前着

亞

田中外務大臣

槽谷領事

第六一號

往電第五六號其後當地ノ情勢ニ關シ

長ニ歸省シタル半、河、訓等諸將領ハ今日迄ニ殆ト大體前電ノ通

軍隊ノ配置ヲ了シ目下當地ニ留マリテ省政府内ニ第四集團軍聯合

辦事處ヲ設ケ何レモ常務委員トシテ相協調シ依然周瀾ヲシテ省政

府首席代理トシテ留ラシノ内部ノ結束ヲ保テツツ磨生智下野セル

以上共ニ提携シテ北伐及共產黨ノ撲滅ニ從事シ一切ハ第四次執監

委員會ノ解決ニ俟テ度シトノ主張ノ下ニ程請、李宗仁トノ間ニ代

支那内亂關係一紙
國民軍、北伐關係

我々交換ノ事ヲ和平解決ニ努力シツツアリ其ノ間或ハ困難ハ當面
ト宜シク李宗仁トノ間ニ妥協成立セルモ白崇禧ノ態度強硬ナリト
ノ説アリ或ハ三軍長ノ地位ノ保全及湖南省首席トシテ權限ノ代ヲ
ニ李品仙ヲ任命シ三十六軍ハ將來省外ニ移動シ中央ハ湖南ノ財政
ヲ補助スルコト等ヲ以テ主要條件トシテ妥協進行中ナリトモ傳ヘ
ラルル處右ニ關シ本官カ先日來之等將領ヲ慰問得タル印象ニ依レ
ハ程、李間ニモ未タ何等具體的解決辦法決定セサルカ如ク彼等ハ
萬一不幸ニシテ和平解決絶望ノ曉ニハ現有十萬ノ兵ハ南京聯軍カ
其全力ヲ舉ゲテ來ラサル限り充分之ヲ阻止シ得ル自信アリ況ヤ南
京軍ノ内訌ハ殆ト之ヲ想像セラレスト稱シ表面樂觀的態度ニ見受
ケラレタリ

次ニ去月二十八日上海發賣大臣宛楊森代表ノ談話。白ノ湖南通過
ニ關シ本官周瀾ニ面會ノ際尋ホタルニ彼ハ未タ確カナ（脱）李カ
漢口ヲ棄テテ入廣スルトハ考ヘラレスト言ヒ實際今ノ處湖南ノ將
來ニ付テハ最近自分自將ノ事スラ皆目見當著カスト語レリ尙上海
蔣介石代表トシテ劉文島數日前當地ニ來リ何事カ接洽スル處アリ
タルモノノ如ク二十九日當方代表ト共ニ歸麗ノ途ニ就ケリ
當地目下ノ狀況ハ大體紋上ノ如ク其真相ヲ把握スルニ苦シム次第
ニシテ今後ノ推移如何ハ兎ニ角トシテ當地諸將領ニ關スル限り彼
等ハ部下軍隊ノ戰意ナキト財政難トニ依リ多數ノ兵力ヲ有スト語
稱シナカラモ内心前途ニ對スル成算ナク只管和議ノ方法ニ依リ何
レヘナリトモ附和シテ保身ヲ策セントスルノ外他意ナキモノト觀

測スルヲ當レリト爲サムカ

目下夜間ノ戒嚴極メテ嚴重ナルモ人心比較的落着キ
レリ尙變局ノ爲十四日以來漢口當地間水陸交通杜絶
週間以上モ往復セス僅ニ昨今長沙岳州間鐵道開通ニ依リ二十八日
以來弗々到着シ居レリ

北京へ轉電シ上海、蘇州、九江へ暗送セリ



電信寫

(分類 461.5, 1-2)

昭和2 一五五五九

暗

長沙 本衛

十二月 三日 後着

重一

田中外務大臣

補各領事

第五六號

唐生智下野後第四集團軍所屬各將領ハ一面南京軍トノ衝突ヲ避ケ
 他面士卒ノ休養整理ヲ名トシ續々武長鐵道並水路ヨリ當地ニ引揚
 ケツツアリ既ニ李品仙、何健及鄂西方面ニアリシ吳肖鵬等ハ曉
 レモ昨十六日著長セシ宛湖南省今後ノ善後策ニ對シ交渉員長馮國
 政總長ノ談其他ノ情報ヲ綜合スルニ差當リ之等將領ノ手ニ於テ調
 南ヲ維持セントスルモノノ如ク之カ爲一方南京政府ニ打電シテ調
 平解決ヲ申入レ他方何健軍ヲ常德ヲ中心トスル 湘 西方面ニ李品仙

記録係名又
 附録
 一件
 氏名
 氏名

軍ヲ萍鄉方面ヨリ入湘セントスル江西軍ニ備フル爲萍鄉鎮守使
一帯ニ獨興軍ヲ衡州一帯湘南方面ニ配置シ更ニ現省政府自衛隊
周瀾及蔡其ハ長沙、岳州一帯湖北省境ノ防衛ニ當ルコトニ大體決
定シ尙今後ノ詳細ナル対策ニ關シテハ兩三日中ニ歸來スヘキ編製
蔡其等ノ到着ヲ待テ決定スル筈ナリト關フ南京政府ニ對スル和
議申入ニ對シテハ一説ニ依レハ未タ何等回答ナク或ハ湖南ハ南京
軍ノ蹂躪スル處トナルヘシト云フ者アルモ右説ノ誤ニ依レハ昨夜
自蔡其ヨリ唐生智下野セル以上湖南ニハ兵ヲ入レサル旨ノ電ニ
接シタリトノコトナルカ察スル處南京政府自體内憂外患ニ苦シム
今日殊ニ保衛方ノ再々南下設サヘ傳ヘラルル折衝四圍ノ狀況ハ刻
底其湖南進出ヲ許サルヘク又彼等ノ最惡念セル程湘軍ノ湖南入

ニ對シテハ之ニ對スル豫防策トシテ兩三日中ニ湖南人民ノ名ニ於
テ湖南ノ地ヲ戰禍ヨリ救ハレ度旨ノ懸電ヲ彈延閣宛發スル筈ナリ
トノコトナレハ恐ラク時局ハ案外平穩穩ニ推移スルニ非スヤト觀
測セラル目下當地ハ歸還兵及傷病兵充満シ流言百出セルモ嚴重ナ
ル戒嚴ニ依リ秩序ハ充分維持セラレ居リ人心恟々裡ニ尙良ク市面
平常通營業行ハレツツアリ時局ノ推移ニ付テハ細心注視中ナリ
在支公使ニ轉電シ上海、漢口、廣東、九江、南京へ暗送セリ

第 399 號
大正 2 年 12 月 4 日

支那亞局長
米 9390 9395
新 9394 9396
伯 9392 9397

電信局長 澤田

電信室

主 情報部長 小村
任 情報部第二課 (昭和 2 年 12 月 5 日)

(原綴用紙用)

件 支那時局ニ關スル件

在英、在米、在伯各大使、
在汕湖及在新加坡各總領事宛

名 込 田 中 大 臣

合 第 二 五 四

「支那情報」

(二) 9395, 9390
↓ ↓
9399, 9394

一、奉天、山西ノ戰局ハ山西軍各方面トモ守備ヲ固ウシ居ル爲其勢

著シキ變化ナシ

二、關海線方面ニ於テ一時進撃ヲ中止シ居タル馮玉祥軍ハ十一月

山東軍ヲ再ヒ撃破シ既ニ徐州附近ニ迫レリ一方津浦線方面ノ南軍ハ孫傳芳軍ヲ壓迫シ十一月十六日蚌埠ヲ占領シ更ニ進ミテ固鎮附以
北ニ達セリ
連平附シ居レリ

三、武漢ニテハ唐生智失脚後南京^軍ノ李宗仁、程潛等各々軍隊ト共ニ來着シ治安ノ維持ニ當リ次テ南京側ノ任命ニ依リ程潛ハ湘鄂兩時政務委員會首席ニ、李宗仁派ノ胡^宗錕ハ武漢衛戍司令ノ職ニ就キタリ尙唐生智ノ舊部下ナル何健、劉興、李品仙、周鳳等ハ何レ

モ湖南ニ退キタリ

四、廣東ニ於テハ李濟派（廣西派）カ汪兆銘ト共ニ上海ニ赴キタル

留守ニ乗シ十一月十七日張發奎、黃琪翔等廣東派ノ軍隊ハ「クー

デター」ヲ起シ廣東派ノ黃紹雄ヲ驅逐シ廣東ノ實權ヲ奪ヘリ黃紹

雄ハ廣西省梧州ニ於テ又李濟派ハ南京政府ニ頼リテ廣東回復ヲ企

テ居レルカ南京政府ハ十二月二日張發奎ニ對シ討伐令ヲ發シタリ

五、上海ニテ十一月中ヨリ蔣介石及汪兆銘ヲ中心トシテ行ハレ居タ

ル國民黨諸派統一ヲ目的トスル第四次中央執行監察委員全體會議

店正下

開催運動ハ南方各派間ノ利害關係頗ル錯綜シ殊ニ張繼等西山會議

一派ハ右會議ニ委員ヲ有セサル關係上南京特別委員會ヲ支持シ飽

ク迄右會議開催ニ反對スルノ態度ヲ執リ厚一方前記廣東事件ハ

白崇禧

此際南京政府實力派タル李宗仁等（廣西派）ノ感情ヲ痛手害ナフ

等種々ノ事情ノ爲各派ノ協調ヲ見ルコト至難ニ認ノラレシカ其後

執行及監察委員各地ヨリ續々着滬シ兎モ角十一月二十四日ニハ談

(原議用紙乙) 圖前

話會ナルモノ開カレ次テ十二月三日ヨリ全體會議ノ豫備會議ノ開
催ヲ見ルニ至リタルモ會議ノ前途ハ尙豫測シ難キ狀態ニ在リ旁々
南方統一問題ハ依然相當多難ノ模様ナリ

電信寫

(分類 A6.1.5.1-2)

秘

昭和2 一五八〇七 暗

漢口
本省

十二月十一日前着

亞

田中外務大臣

高尾總領事

第六五五號

宜昌發本官宛電報

外務大臣ニ轉電アリタシ

二十軍萬縣へ二十三軍宜都へ引揚ケヲ命セラレ當地ハ胡宗鐸軍來
駐スヘシトノ說アリ楊森ハ商務會へ給養費二十五萬弗ノ訓達ヲ命
セリ楊軍ハ巴來、柿歸一帶警備ノ任ニ當ルト

記録係 支那内務省第一課
主任 山口 俊彦

記

161520

(分類 A. 6. 1. 5. 1-2):



昭和2 一五八九 暗

長沙

本省

十二月十三日後發

亞

田中外務大臣



槽谷領事

第六八號

九江發本官宛第四三號二關シ

其後當地ノ狀況ハ前途見定ノ着カサル爲人心依然不安裡ニアルモ市面割合小康ヲ保チ居レリ（一昨夜ノ共產黨暴動事件ニ依リ多少動搖セルカ官憲側ノ措置宜シキヲ得タル爲本日ハ又平穩ニ歸ス）

尙第四集團軍ノ武漢南京側トノ政治的交渉ハ累次電報ノ通ナル處軍方面ニ於ケル磨討伐ノ爲繰出サレタル各軍トノ最近戰況御參考迄略述スレハ左ノ如シ

記
食
五
支
和
內
亂
異
傳
一
件

已
氏
年
一
北
休
異
傳

ハ長ニ廣東省境永興、郴州方面ニ進出セル范石生軍ハ富方派遣ノ
劉興軍ニ撃退セラレ又同方面ニ久シク蟄居セル許克祥モ唐生智
下野セルヲ以テ富方トノ間ニ妥協成立セリトノコトニテ一帯平
靜ニ歸シ同軍ハ該地方ノ警備ヲ現駐軍隊ニ委任富地ニ引返シ各
地ノ戦況ニ應シ隨時伺レノ方面ヘモ出動シ得ル様準備ヲ整ヘツ
ツ富地ノ守リニ任シツツアリ

ニ今次ノドサクサニ乘シ湘西澧州辰州地方ヲ占領セル楊善部下李
曉煥軍ニ對シテハ何健軍之ニ富リ數日前同方面ニ可ナリノ激戦
アリタルモノノ如ク其結果李等ハ敗走シテ湖北省境ニ退キ同方
面ハ完全ニ富方ノ手ニ回復ス

ニ平江方面ニ陳銘祐ノ小部隊現ハレ富地ヲ一寸壓カセタルモ（海

軍電報ハ多分之ヲ大袈裟ニ傳ヘタルモノナルヘシ。同方面ニモ
部隊ヲ増加シ（李品仙軍）停戰命令違反ニ抗議シタル結果陳等
ハ漸次通城方面ニ引揚ケツツアリ

■萍鄉方面江西軍ニ對シテハ醴陵一帯ニ李品仙ノ充實セル部隊ア
ルヲ以テ今ノ處江西軍侵入ノ模範ナシ

北京、漢口、九江へ轉電セリ

671.92121

電送 9690
9699

2 年 2 月 20 日

支那局長



電信局長

主 任

情報部長

主 任

(昭和十六年十二月二十日)

(原稿用紙)

件 支那時局ニ關スル件

名 込 圓

宛

在英、在米、在伯各大使
在補辦及在新嘉坡各總領事

發 田 中 大 臣

平 電

第 二 六 五 號

其 其

9695, 9690,

9699, 9694,

「支那情報」

一、馮玉祥軍ハ本月三日ヨリ七日ニ亘リ、海線ニ沿ヒ徐州ヲ強襲シ

タルカ山東軍ハ張宗昌指揮ノ下ニ能ク防キ之ヲ擊退セルモ十圍日ヲ

何應欽ノ率ユル南京軍津浦線ニ沿ヒ徐州ニ進駐セル爲山東軍ハ十

181530

0287

六日徐州ヲ放棄シ韓莊方面ニ退却シ張ハ濟南ニ歸リ。

シタルモノアリ
徐州ニ在リ
徐州ニ在リ
徐州ニ在リ

二、上海ニ於ケル國民黨中央執行監察委員豫備會議ハ譚延闓、蔡元培、李宗仁等南京派委員ト汪兆銘等廣東派委員トノ反目ノ爲一時行惱ノ模様見エシカ結局(一)第四回中央執行監察委員全體會議ヲ明年一月一日ヨリ十五日迄南京ニ開クコト(二)右開會ヲ機トシテ南京ノ特別委員會ヲ取消スコト(三)蔣介石ニ對シ國民軍總司令ニ復職ヲ請求スルコト其他ヲ決定シ十日閉會セリ。尙蔣介石ハ會議ノ決議ニ依リ右全體

會議ノ際、^{ニ於テ}滬寧、滬杭兩線ノ軍隊指揮權ヲ授ケラレ委員ノ身邊ノ安全保護ニ任スルコトナレリ。▼

三、廣東ニテハ黃琪翔部下軍隊ノ一部、工人、農民等ト共產黨軍ヲ組織シ廣東政府軍カ西江方面ニ出動中ナル留守ニ乘シ十一日朝公安局ヲ襲ヒ次ア市ノ大部分ヲ占領シ廣東「ソヴィエト」政府ヲ樹テ蘇兆徵ヲ首席ト爲セリ。廣東政府側ニテハ李福林ノ軍ヲ主力トシ張發奎、黃琪翔等相協同シテ共產黨ト戦ヒ又地方ヨリノ援兵來着シ十三

日午後廣東全市ヲ回復スルヲ得タリ。右事件ノ爲我カ博愛病院ノ一部類焼セルモ他ニ日本人ノ損害ナシ。其後廣東政府ハ共產黨員彈壓ニ努メ居レリ。

四、南京政府ノ廣東討伐ハ白崇禧ヲシテ湖南方面ヨリ李濟ヲシテ廣東、廣西ニ在ル軍隊ヲ糾合シテ之ニ當ラシムルコトトナレリ。又南京政府ハ十五日附ヲ以テ管下ノ^{所屬}國ノ領事館及國營商業機關ノ承認ヲ取消シ駐在官公吏ノ退職ヲ要求セル趣ナリ。

張家口本日領事館

機密第一七九號

昭和二年十二月二十二日

在張家口

領事 山崎 龍一

外務大臣男爵 田中義一殿

後遠區駐屯軍隊ノ近況報告ノ件
本件ニ關シ最近ノ情報ニ依リ概要別紙ヲ以テ
報告ス

本信 寫送付先 在支公使

綏遠區駐屯軍隊近況

最近奉天軍ノ入綏以來山西系ノ軍隊ハ殆ント敗ズレテ
倅々ニ全部カ山西北部ノ雁門關偏關等ノ要害地ニ
ニ移動シタリ其結果トシテ現ニ包頭迄ハ奉天軍(新軍)
降軍ヲ含ムノ實力範圍トナリタルニ有過數第十五軍長以
金純ヲ綏遠都統ニ任命シ臨時都統代理トシテ第十六師
長郭希鵬ヲ其職ニ當ラシメ各部ノ擴張ヲ任命シ大々
着任中ナリ今十二月中旬現在ノ綏遠區駐屯軍ニシテ情
報ヲ綜合スルニ概要左ノ如シ

一、郭希鵬軍

代理綏遠都統郭希鵬ハ綏遠城ニ駐在ス所屬軍ハ奉天
軍第九軍ニ屬シ暫編第十六師ト稱ス總兵數三千ニ至
百餘(本年十月晉奉間戰前ハ察西鎮守使トシテ

張家口本日領事館

使署ヲ置キ附近一帶ノ察西區境ニ五區ノ騎兵上一團ノ步兵
機關銃隊一營迫撃砲隊二連ノ混合編成ナリレカ晉奉鐵路
ノ為メ兵數約四分ノ一ヲ減少セリト云フ

郭軍ハ軍隊ノ更替他ノ奉天所屬軍隊比シ嚴格ナル為メ
ニ歸化城綏遠城ニ組織的且大規模ノ練習ナク居民一
ニ小康ヲ保テリ

鄭澤生軍

綏遠城外ニ駐屯ス兵數騎兵約一旅從前察區ノ土着軍ニシ
テ先年察西鎮守使騎兵第二旅ノ第二團長タリ其後
軍時代ニ綏遠軍ニ移リ各地ニテ募兵シ本年九月晉奉兩軍
開戦直前ニハ山西軍騎兵第一師長トシテ高麗ノ楸橋下
ニ屬シ察區ノ中央部ヲ通過シ独石口古北口ヨリ北京ノ東
北一帶ニ脅威ヲ與ヘタルガ間モナク高麗カ是却ヲ實現ス

張家口本日領事館

機ヲ見テ奉天軍ニ授シ第三十一軍長ニ任命セラレ張作霖
兵器彈藥及糧食被服ノ供給ヲ得テ現ニ山西省西北方
偏關攻勢ニ從事ス（ノ綏遠城ヨリ進出中ニ在リ）

王英軍

綏遠上着軍ニシテ現在兵數約一旅曾テ鄭澤生ノ部下タ
リシカ本年晉奉開戰直前ニハ晉軍騎兵第八師長タリ
其後鄭ノ奉天軍ニ投降スルト矣ニ之ニ隨從シ現在第三十
師長トシテ薩縣以西包頭間ニ部隊ヲ駐屯セシメ居レリ今
四鄭澤生ノ偏關攻勢ノ第三十一軍ニ参加セル模様ナレハ
偏關方面ニ向フ見也

王英軍亦奉天軍ニ比シ軍紀嚴格ニシテ一般農商民ヨリ
信用アリト云フ

四滿泰軍

張家口本日領事館

滿泰ハ内蒙人ニシテ綏遠土着軍ノ頭目ヲ現在兵數約一旅
從前綏遠城ノ北方武川縣ニ駐屯シ旅長アリシカ本春蒙
晉軍騎兵第五師長ニ昇格シ都統而震ノ指揮下ニ
シタリ十月晉軍高震ノ敗退スルマ綏遠ニ歸リ鄭澤立
ト相前後シテ奉天軍ニ投降シ現在奉天側ヨリ綏西鎮
守使ニ任命セラレ包頭縣ニ駐屯ス

部下ノ將卒ハ綏遠区ノ土着民多ク又新附ノ土匪及國民軍
ヨリ投降シタル者等ナリ軍紀ハ奉天軍ニ比シ稍優良ニシテ
地方商民ヨリ信用アリ

五國民軍系宋哲元軍

宋ハ昨年八月迄ハ熱河都統タリ現下其兵數ハ步兵二
團騎兵一團機關銃隊等ニシテ主力ハ甘肅省寧夏ニ
其一部ハ綏遠区五原ニ駐屯セリ奉天軍ニ兵力ノ關係上

在張家口日本領事館

徹底納ニ追撃セズ宋軍亦後進ノ事大軍ヲ正西ニ移
破シ得ヘキ兵力ナキヨリ双方脱合ノ形ニテ迫るノ機あり
得テ居ルモノ如シ

他ノ情親ニハ宋ハ寧夏ヲ本據地トシ蘇聯ト西軍トノ
聯絡任務ニ從事シ五原ヲ経テ蘇聯ヨリ軍需品ノ供
給ヲ受ケ居レリト知スルモ其確否數量等查知シ難
シ

秘

平書ハ
山東駐省

高

4615.1-2

昭和2 一六三九六

暗

濟南 本省

十二月廿六日後着

要書

田中外務大臣

藤田總領事

第三二二號

貴大臣發上海宛電報第四四八號ニ關シ

南軍北進ノ際ニハ從來ノ例ニモ違ハ第一ニ膠濟鐵路ノ破壊又ハ遮

斷セラルル處右ハ當地在留民安全ヲ保ツ上ニ最も關係深キモノナ

ルニ付テハ該鐵路ト我方トノ關係ニモ違ハ豫ノ蔣介石及湯玉麟ニ

對シ

(1)該鐵路ハ我方擔保物權ニシテ現ニ二百四十萬圓ノ利子未拂付ニ

約百萬圓ノ積立金未済アル現狀也ニ

山東省政府
外交部
十二月廿六日
外交部
外交部

同該鐵路ノ安全ハ濟南及ヒ青島在留民ノ安全ヲ計ル上ニ於テ絕對
必要ナル事ヲ充分説明ノ上南軍又ハ海軍ノ該鐵路ヲ通過シ又ハ他
日軍隊輸送ノ爲ニ適當利用スルコトハ已ムヲ得ストスルモ之ヲ破
壞又ハ遮斷スルコトハ我方ニ於テ看過スルコトヲ得サル旨適當ナ
ル時期ニ於テ一應然ルヘク警告シ置クコト必要ナルヘキヤ御參考
迄ニ申進ス

北京、青島、上海、漢口ニ轉電セリ

張家口本日領事館

第一八三號

昭和二年十二月二十七日

在張家口

領事

山崎

外務大臣男爵 田中義一殿

情報(第二五號)

一、主要驛ニ貨車集中

既電ノ如ク十二月二十五日頃以來張家口大同、張遠等
ノ各驛多流鑛車貨車ノ集中ヲ開始シタルガ本二
十七日迄ノ所ニテ張家口ノミハ實況ハ津浦線用
鑛車(流鑛車、貨車共)京漢、京張、津浦、平漢、

在張家口本日領事館

泥同スハ隨時北京ニ送り、貨車ハ大同ニ發送中ナリ
二、傷病兵北京運送

十二月二十日頃ヨリ大同方面ニ收容ヒシ兵隊ノ傷病
兵ヲ隨時一、二車北京方面ニ運送シ、開始シタリ其實例
トシテ二十一日張家口通過軍用一列車傷病兵ニ西石炭
二十四日張家口ヨリ三十餘名二十六日在大同第九軍野
戰病院ヨリ三車ニテ七十八名ヲ運送セリ

三、糧秣ノ運送

十二月二十二日ヨリ張家口軍用倉庫ニ貯藏セル麥、燕麥、
豆餅、高糧等ヲ毎日一、二車ヲ旅客列車ニ連結シテ北
京方面ニ輸送シ、二十六日現在ニテ在庫品ノ約大半ヲ發
送セリ、右特ニ軍用列車ヲ用ヒタルハ數量ノ多カク、
メカ、或ハ謠言ヲ發生セシメテ人心ノ不安ヲ起タル

張家口本日領事館

不明ナリ

四少數兵ノ東行

十二月二十日頃ヨリ奉天軍ノ歩騎兵小部隊宛ヲ大同
方面ヨリ張家口經由ニテ東方ニ前進セリ（部隊兵數不
詳）當地方ニテ得タル各種ノ情報ヲ綜合スルニ奉天軍
ハ表面山西總攻撃ヲ標榜シテ自己ニ不利ナル謠言
傳說ヲ抑ヘ其内實ハ山西ニ對シ守勢カヲ取リ放ルヘ
戰線ノ縮小ヲ謀リ一部ノ兵力ヲ京漢線ニ移サント
スルモノ如ク右實現ノ曉ニハ大同ニ兵力ヲ集中シ一
時京綏線ノ交通ヲ塞ノ如クナラレメ綏遠方面ノ奉
天兵及流鏑車貨車ヲ全部引揚ケ下花園ニテ山西
軍ヲ食止メントスル策ニ出ツルモノト見ラレタリ
斯ル場合ニ至ラハ新投降ノ軍ハ必ズ出ツルヲ恐ル

張家口本日領事館

甘肅內郡、勳將如何。固、王、
宋哲元、軍、山西軍參加、
馬、送、先、在、文、公、使、天、津、
、

電信寫

(分類 A6.15.1-2)



昭和三年一月一日

漢口
本省



一月一日前着

亞

田中外務大臣

高尾總領事

第六八五號

宜昌發本官宛電報第八七號

外務大臣へ轉電アリタシ

本日沙市ニ赴ク普ナリシ楊森ハ昨夜二時發汽船「イーリン」ニテ萬縣

へ急行セリ本日秘書ヲ當館ニ遣ハシ旅程變更シタルヲ以テ種々ノ

斷言アルヘキモ取ルニ足ラス約二週間ノ後ニハ當地ニ戻ル旨申越

シタルカ劉湘ノ野心ニ對シ萬縣ヲ國ムル必要迫リタルモノト察セ

ラレ當地ニハ魯滄平ノ第二軍再ヒ來ルヘキ説モアリ

在支公使、重慶、沙市ニ轉電セリ

記錄
本館
外務省
宜昌
高尾總領事
一月一日前着

5.13

極秘

(分類 46.1.5.1-7)

奉天情報第一五二號

昭和三年一月七日

奉天公所長

鎌田

彌

助

情報課長 收

宣達付完

審議理事

庶務部長

文社長

吟事長

各公所長

奉天同長 地事長

錦州ニ於ケル濟南兵司令ト常交通次長

衝突 (某要人ノ談)

一月六日(即チ陰曆十四日)ハ交通次長常原槐氏母堂ノ三週年忌

ニ相當スルノヲ交通部及京奉鐵道關係ノ重士等ノハ次長

三田局長

第一課

田

音



161541

0309

ト共ニ三日特別仕立ノ列車ヲ打虎山ヨリ打通線ヲ經テ梨樹
縣(次長ノ御室ニ在リ)。事件ハ恆ニ其前日二日ノ出来事ヲ
アル常次長ノ京中臨時ノ下車ニ同地交通大學(昨年四月新
設)ヲ參觀シテ方特ニ奉リテ此等事ニ交通飯店、河南料理
以衆ヲ米粍粥將軍ノ部下馬賊收買訓令、要務ニ帯ヒ地方巡
視中ノ警備兵司令官其他同地各機關ノ代表者三十余名ヲ校舎
ニ招行シ盛宴ヲ張ツル其席上不圖シテ事カク警司令ト常次
長トノ間ニ爭論ヲ醸シ次長ハ公衆ノ面前ヲモ悼ラス歎々同



161530

0310

合々要請し非禮ヲ加ヘシ旨迄我慢し来ツテ司令ニ逆ニ勅居
家ノ結ニ切ラシ腕力ニ訴ヘテツヤ大事ニ至ラレトシカ朱
將軍ノ慰撫ニヨリ漸ク事ヲマツテ得テ將軍ハ成ルヘク本問題
ヲ内請ニシテ元帥ノ耳ニ入リテ得テモウチ種々盛力
シテ告ルカ平常カラ次長ノ傲慢不遜ノ態度ニ面白カラズ威
情ヲ持ツテ告ル連中ハ逆余能事ナル司令ニ同情シ次長ノ仕
打ヲ攻撃シテ告ル因下奉天官場ヲハ此事件ヲ極秘ニ附シテ
告ルカ双方共辞職ヲ覚悟シ已ニ辞表ヲ提出シタトニ傳ヘ

161530

0311

レテ
告ル
カラ
早晚
一
閱
着ハ
免レ
マ
イ
ズ
。

(終)



161530

0312

電信寫

(分類 A 6.1.5, 1-2)

昭和3 二五八

暗

漢口
本省

一月十一日前着

田中外務大臣

第六號

湖南及上流楊森ニ對スル武漢派ノ軍事行動ハ兩三日來非常ニ緊張
シ盛ニ軍隊ノ移動ヲ行ヒツツアリ各方面ノ情報ヲ綜合スルニ大要
左ノ通

(一) 沙市漢水上流方面ハ第二軍獨立第一師及十九軍ノ一團兵力約二
萬ヲ配置シ楊森軍ノ下江ヲ制止スル爲ニ當リ守勢防禦ノ態度ヲ
持ス

(二) 湖南ニ對シテハ積極的軍事行動ヲ開始スル爲ニ西路軍ハ第七軍基

支那政府ノ北伐軍
國民軍ノ北伐軍

幹トナリ第四十四軍第六軍ヲ加ヘ嘉魚ニ司令部ヲ置キ漢圻軍總
司令部ヨリ一舉岳州ヲ突キ湖南ニ進軍スヘク但シ第七軍ヲ除ク
外士卒戰意ナク士氣又揚ラス中路軍ハ胡宗鐸第十九軍ノ主力ヲ
率ヒ通城平江ヨリ以南ニ進入セントシ士氣旺盛ナリ東路ハ第十
三軍第二十一軍ノ主力ヲ以テ瀏陽ニ向フ右三路ノ總兵力約七萬
ト稱シ今後重ナル戰鬪ハ岳州平江ヲ通ネタル線ノ前方ト推斷セ
ラルル處武漢軍ノ結束ハ固ヨリ充分ナラス今後戰鬪ニ堪ヘ得ル
モノハ第七、第十九ノ兩軍ニ過キスレテ湖南軍ノ作戰宜シキヲ
得ハ湖南軍ノ勝算ナキニアラス只湖南軍内部ニ於テモ結束足ラ
ス最近稍動搖ノ色ヲ呈シ來リタル模樣ナルニ依リ勝敗ノ數未タ
豫斷シ難シ

(三) 武漢ニハ第十八軍、十九軍ヨリ分割シ新ニ編成シタルモノ軍長
トウキンワ 胡宗鐸不在中衛戎司令代理ヲ兼攝ス一及各軍守備隊
ノ一部駐屯シテ治安維持ニ當ル總兵數約二萬

(四) 次ニ雷州ヨリノ情報ニ依レハ馮玉祥ハ既ニ黃河ヲ涉リ一舉德州
ヲ突ク計畫ニ出テ又方振武部下過般當地ニ於テ北伐實行ヲ協議
シ兵力軍費モ既ニ充實シテ行動ヲ開始シタリト傳ヘタル

北京、上海、濟南、長沙へ電報ヲ蘇州、南京、九江へ暗電セリ

電送第 133 号 平
 3年 / 月 / 日 前 3 時 0 分 發

支那軍局長

電信課

主 情 報 支 那 軍 長 官

任 主

(起 草 本 草 三 年 十 月 十 日)

(原 稿 用 紙 甲)

件 名 支 那 時 局 ニ 關 ス ル 件

宛 在 英、在 米、在 伯 各 大 使
 在 浦 潮 及 在 新 嘉 坡 各 總 領 事

宛

名 込 額

發 田 中 大 臣

支 那 音 令 第 二

支 那 情 報

一 山 東 方 面 ノ 戰 局 ハ 目 下 嚴 寒 期 ニ 入 レ ル ト 各 軍 共 軍 費、兵 器 等 漸 々

ナ ラ サ ル 爲 活 潑 ナ ル 行 動 ニ 出 ツ ル キ 田 中 ナ ン 南 京 軍 ハ 徐 州 ナ 根 據 ト

シ 馮 玉 祥 軍 ハ 曹 州 單 縣 ノ 線 ナ 保 チ 居 ル ニ 對 シ 山 東 軍 ハ 兗 州、濟 寧

附 近 ニ 主 力 ナ 配 置 シ 睨 合 ノ 姿 ニ 在 リ。奉 天 軍 ハ 山 河 關 ノ 關 門 嚴 重 ナ

ル爲有力ナル援軍ヲ山東方面ニ送ルコトヲ得サルモ一部隊ヲ德州
滄州方面ニ派シ、^左黃河岸ヨリスル馮軍ノ攻撃ニ備ヘ居レリ。尙
南軍ノ右翼ハ海州ノ北方迄進出セリ。

ニ蔣介石ハ客年上海會議以來四圍ノ狀勢カ其ノ出處ニ有利ニ發展シ
來レルニ乘シ一月三日總司令復職ノ通電ヲ發シ翌日南京ニ入レリ。

右ト同時ニ南京政府ノ改造行ハレ外交部長伍朝樞ノ職ハ次長郭泰
祺ヲシテ代行セシムルコトトナリ又宋子文新ニ財政部長ニ孫科ハ

建設部長トナレリ。又廣東事件ニ關聯シ汪兆銘ハ舊版佛國ニ亡命
スルニ至レルカ第四回執行監察委員全体會議ハ廣東派委員ヲ除外
シテ近ク南京ニ開催セラルル模様ナリ。

三 蔣介石トノ折合上上海ヲ去リテ武漢ニ赴キタル廣西派ノ白崇禧ハ

自己ノ地盤確保ノ爲廣西派軍隊ヲ以テ湖南ニ於ケル舊唐生智軍何

健、劉興等ノ勢力ヲ掃蕩セムトシ軍隊移動中ニテ後者ハ蔣介石ニ

移動

頼リテ之ニ當ラムトシ兩湖地方ハ復タ擾亂ヲ見ルノ兆アリ。

四 廣東ニテハ過般ノ共產黨事件ノ爲張發奎、陳公博、黃琪翔等ハ衆

望ヲ失シ辭職^{スル}ニ至リ李福林一時廣東ノ衛戍ニ當リシカ

南京政府側ノ軍隊ハ四方ヨリ續々廣東ニ迫リ張發奎ノ部下軍隊ハ

東方ヘ逃^走シ十二月廿九日黃紹雄ノ軍隊^ヲ廣東ニ入り次テ

一月四日李濟隊亦入廣シ廣東ノ實權ハ李ノ手ニ復セリ。

電信寫

(分類 A6.1.5.1-2)

昭和3 三六一 略

汕頭 本省

一月十三日後着

出中外務大臣

別府領事

第二號

往電第一號ニ關シ

其後當地第十一軍留守司令部ニ到達シタル詳報ニ依レハ張發奎軍
許士英ノ部隊ハ四日午後惠州ヨリ退却河源ヲ經テ江西ニ進テ取テ
ントセルカ河源ハ既ニ第十一軍ニ占領セラレ居ル爲同地北方ヲ迂
回龍川ニ向ハントシテ第十一軍ニ追撃セラレ七日龍川西方ニ於テ
激戰張軍側圍長一名戰死部下二千名武装解除サレタリ一方李漢魂
ノ部隊ハ許軍ノ窮狀ヲ見テ第十一軍ヲ避ク道ヲ紫金ニ取り目下許

支那内亂關係一併
國民軍ノ北伐關係

軍ノ残部ト五華ニ通シ來レル處黃紹雄ノ部隊ハ同一路ヲ取り幸ヲ
追撃中ニシテ陳銘樞ハ龍川ヨリ五華ノ西方ニ出テ陳濟棠ハ五華ノ
南ニ廻リ三面挾撃ノ筈ニテ張軍ノ運命モ三四日中ニハ窮マル見込
ナリト

報電先前電通



161530

0331

(分類 A 6.1.5.1-2)



昭和3

三三二

暗

漢口
本省

一月十三日前着

要一

田中外務大臣

第九號

往電第六號ニ關シ

其後武漢派ハ西路軍ノ第六、第四十四軍（軍長葉開鑫）十二日戰線ニ赴ケリ一ヲ臨湘ニ進出セシメ岳州方面ヲ押ハ第七軍ハ中路ニ移シ第十九軍ト共ニ通城平江ヨリ汨羅湘陰ノ線ヲ突キ一舉長沙ニ迫ラシムルコトトシ十五日頃ヨリ總攻撃開始ノ豫定ナルカ之ニ對シ湖南軍ハ主力ヲ湘陰一帶ニ置キ嚴重ナル防禦線ヲ張り機會ヲ捉ヘテ攻勢ニ轉セントノ作戰ナル模様ノ處既ニ蔣介石密使劉文島等ノ



高尾總領事

言ノ
及
附
原
作
一
件
國
民
軍
ノ
北
方
開
局

手ヲ經テ三十萬元ノ軍費ハ湖南軍ノ手ニ入り更ニ二十萬元ハ日下
長沙ニ現送中（十一日當地着十二日長沙ニ輸送手配済ノ由ナリ）
ニシテ軍費彈藥モ一通充實セルヲ以テ遂カラス兩軍ノ大衝突ヲ演
出スルニ至ルヘシト豫想セララル
在支公使、上海、南京、長沙ニ轉電シ蘇州、宜昌、沙市、九江ニ
暗送セリ



電信寫

(分類 A 6.1.5.1-2)

昭和3 五六三 晴

漢口 本省

一月十九日 前著

田中外務大臣

第二一號

往電第一八號ニ關シ

武漢軍ノ總攻撃ニ先立テ十六日湖南軍ヨリ行動ヲ開始シ兩軍平江
 東北十里ノ地點ニ於テ一大衝突ヲ演シ次テ各所ニ小競合有リタル
 モ決戦ニ至ラス戦況ハ大局上未タ何等變化ヲ見ス武漢軍ノ配置ハ
 大體往電第一二號ノ通ナルモ岳州方面ニ進出シタル葉開鑫ノ態度
 ハ愈々曖昧ニシテ湖南軍及楊森ト相當聯絡ヲ通シ居ルモノノ如シ
 尙胡宗鐸軍ノ行動如何ハ今後最興味有ルモノニシテ湖南軍中ニ在



高尾總領事

記録片名

支那内戦関係一併

國民軍ノ北伐關係

ヲ鑑賞ノ畫策ヲ題ラス蔣介石密使國文島ト聯絡迄山陰中ニシテ其
間ニ滬頭スル白崇禧トノ輸送ヘ主トシテ前線ノ去就如何ニアリ
ト一般ニ觀測セラル

北京、上海、長沙、南京へ特電シ蕪湖、沙市、宜昌、九江へ暗電
セリ



電信寫

(分類 A 6.1.5.1-2)

昭和五 五九〇 暗

汕頭 本省

一月十九日後着

亞

田中外務大臣

第五號

往電第二號ニ關シ

黃紹雄部隊ノ進出遅レタル事ト張軍側尙三萬ノ小銃ヲ有シ其ノ勢力
 儼リ難キトニ依リ陳銘樞ハ龍川ニテ五華ノ張軍ニ對峙中ノ處十
 五日黃紹雄軍紫金方面ヨリ進出双方ヨリ張軍ヲ壓迫セル爲メ同軍
 ハ目下江西ニ向ツテ五華ヲ退去シ兩部隊ハ五華ニ於テ合シ陳濟棠
 部隊ハ鐵城ニアリ三部隊ニテ追擊中
 轉報先前電ノ通

記錄件名

支那軍北伐關係
國民軍北伐關係



別府領事



五細部局

第一課乙

昭和三年一月十日

五細部局

奉天情報第一五六號

昭和三年一月二十日

奉天公所長 鎌田 瑞助

情報課長 設

五細部局



宣達付先 齋藤理事

各分局長

齊藤部長 支社長 吟事長
奉天開長 地事長

清郷系局ノ設置ト補充隊ノ分属(特務機關)

(分類 16.1.5.1-2)

昨年十一月改組セル清郷系ハ其後補充隊ヲ編成シ又四
系局ヲ設ケ着々事業進行中ナリシカ最近地方面賊ノ横行
ニキニ鑑ミ該補充隊ヲ各分属ニ配属セシメ地方治安
ニ大ニ清郷ノ實ヲ著クルコトハナレリ

一、清鄉行署

奉天省五十八縣，分東西南北，四路，二分劃，各路，一，一，而

設之，東路清鄉行署，一，稱，二，高，長，一，名，三，置，夕

東路行署

(在海龍縣)

局長，包文峻

柳河，金川，興京，通化，輝南，海龍

臨江，長白，柞松，安圖，梅嶺，清源

東豐，西安，西豐，開原，瀋陽，鐵嶺

以上十八縣

南路行署

(在鳳城縣)

局長，董賜

鳳城，本溪，安東，寬甸，輯安，桓仁

岫巖，莊河，通平，遼陽，海城，後

營口

以上十三縣

西路行署
 (在縣城)
 錦西 錦西 興城 绥中 北鎮 義
 黑山 盤山 台安 遼中 新民 彰武
 以上十二縣

北路行署
 (在縣城)
 遼平 法庫 昌圖 梨樹 双山 懷德
 通遼 通遼 雙陽 開通 洮南 突泉
 以上十五縣

備考 各行署二八為共，外事務處若干，別：總局ヨリ

偵緝員二十二名，調查員二十六名，內偵時必要人

員，派遣七ヨリ



二、補充隊、各路分属

第一營長 楊正川 以下步兵二連迫擊砲二門綿州、

第二營長 陳言洛 以下步兵二連迫擊砲二門海龍、

第三營長 裴有禮 以下步兵二連迫擊砲二門鳳凰城、

騎兵第一營長(姓名未詳) 以下騎兵一營迫擊砲二門遼陽、

以上八各地諸師長、楊輝、支久、劉匯、任、ル、若、リ、又、張、
候、步兵二連、山咀子兵營二殘遺、孫備隊ト爲シアリ (終)

電信寫

(分類 A 6. 1. 5. 1-2)

昭和 三 七 一 四 略

福州 本省

一月廿三日 前着

田中外務大臣

西澤總領事

第二號

最近上海ヨリ歸來シ軍事廳長省政府委員會代理首席ニ就任セル方
聲辭ハ二十一日日本官ニ左ノ通内話セリ

(一) 張發奎軍ハ未タ閩南ニ竄入セサルモ之ニ對シテハ漳及補充師一
兵二千一ヲ以テ阻止スヘク既ニ進發セルカ他方廣東ニ入レル十
一軍モ張軍ヲ追擊中ナレハ其ノ入閩ハ恐ラク困難ナルヘシ

(二) 最近泉州ニ於テ海軍陸戰隊林壽國ノ部隊高義、郭鳳鳴軍ノ爲メ
武裝解除セラレタリトノ報道アレトモ右ハ事實ニ非ス尤モ相當

五部内
附(一) 國
附(二) 國
附(三) 國
附(四) 國
附(五) 國
附(六) 國
附(七) 國
附(八) 國
附(九) 國
附(十) 國

ノ激戦アリ双方ノ死傷鮮カラヌ

(三) 福州及泉州方面ノ警備手薄ナルヲ以テ近々南京方面ヨリ相當兵力ヲ呼寄セル事トナリ目下交渉中ナルカ悉クハ獨立第四師團實力歸國スルニ至ルヘシ

北京、上海、廣東ニ轉電セリ廈門、汕頭、南京ニ暗送セリ

(分類 A1.15.1-2)

昭和3 八一四 略

福州 本省

一月廿五日發着



西澤總領事

出中外務大臣

第三號

最近南京ヨリ歸來セル革命軍總司令部參議諸員面（臺灣籍民ニシテ譚曙卿ノ軍事諮議ナリシカ譚ノ失脚後蒋介石ノ下ニ在リ）ノ語ル所ニ依レハ蔣ハ廣西派ノ勢力ヲ挫ク爲張發奎及陳銘樞ヲ利用シテ李濟等ヲ驅逐セントノ底意アリ張。陳ト密接關係アル南京公使局長溫建剛ヲシテ兩人ノ提携ヲ策セシムルコトナリ溫ハ本月十七日上海發太古洋行汽船山東號ニテ汕頭ヘ向ヘル趣ナリ北京、上海、廣東、汕頭ヘ轉電シ廈門、南京ヘ曉諭セリ

記
件名
五
張
附
一
件
（
張
發
奎
陳
銘
樞
）



電信寫

(分類 A6.1.5.1-2 -)

昭和 人〇二 略

油原 本省

一月廿五日後着

豆

田中外務大臣

館藏號

往電第三號ニ關シ

五部ヨリ退却中ノ張軍ハ十六日以來陳銘鑑、黃紹雄、陳濟棠等ノ
 各軍ニ追撃セラレテ大敗シ五六千ノ一隊ハ江西ニ脱出蘇聯橋ノ南
 十部及黃紹雄軍之ヲ追撃中ニシテ殘部ハ崩壊シテ瑞金方面ニ退入
 シ張軍ノ勢力ハ全ク廣東省ヨリ一掃サレタリ爲ニ陳濟棠、陳銘鑑、
 饒大鈞ノ各軍ハ目下河源、龍川、五華、興寧、梅縣、松口等ニ分
 駐專ラ東江内部ノ治安維持ニ當リツツアリ

轉報先商電ノ通

記録件名

支那内乱関係(一)
國民軍ノ北伐関係

別府領事

電信寫

(分類 A 1. 1. 5. 1-2)

昭和3 一〇一四 略

福州
本省

一月廿一日後着

亞

田中外務大臣

西澤總領事

第四號

往電第二號末段ニ關シ三十一日海軍 司令副官ノ本官ニ語ル處ニ

依レハ張貞軍ノ一團ハ三十日廈門ニ到着セルカ残りノ三團モ逐

上海ヨリ廈門ニ上陸目下漳州方面ニアリ十一軍カ近ク全部廣東省

内ヘ入ルヲ待チ其後ヘ駐屯スル筈ノ趣ナリ

北京、上海、廈門ニ轉電シ廣東、汕頭、南京ニ暗送セリ

記録係

王形内記原係一任
劉世國氏軍次大書院

電信寫

(分類 A 6. 1. 5. 1-2)

昭和3 一〇四六 略

廈門 本省

二月一日後着

田中外務大臣

坂本領事

第四號

本官發福州宛電報第二號

大臣宛電第四號ニ關シ

東方發上海宛東方通信部參考迄左ノ照

獨立第四師ノ兵約二千餘人招商局汽船

ツアン並ニカコウ二隻ニ分

載昨一月三十一日早朝來厦續々漳州方面ニ向ヒツツアリ漳州ニ現

在スル第十一軍第二十六師及補充師ハ全部廣東ニ入ル旨尙第四師

殘部七千餘人モ引續キ來厦スヘントノ説アリ尙當地林警備司令ハ

楊樹莊ヨリノ招電ニ依リ情況報告ノ爲一昨三十日急遽福州ニ赴ケ

リ

外務大臣へ轉電セリ

記録係支那内務部係一件

電信課長

電信課長

主 情報部長

主任

(昭和三年三月三日)

(原用紙甲)

件 支那時局ニ關スル件

名 込

田 中 大 臣

支那局長

宛 747 在英、744 在米、744 在伯各大使
746 在新加坡、747 在浦寧各總領事

平 第 一 八 號

「支那情報」

一、北支ノ戰局ハ山東、山西兩方面共格別ノ變化ナク唯山西軍ノ一

部力久シク籠城セル徐州城ハ一月上旬開城シタリ

二月二十一日

ルカ何分ニモ中心人物ヲ缺ケルコトトテ大敗ヲ招キ長沙ハ武漢軍
ノ占領スル所トナリ何健ハ西方ニ制禦、李品仙ハ兩方ニ退却セリ

三、南方政客中山西會議一派ハ蔣介石等ト意見合ハサル爲許崇智及

ヒ鄧魯ハ米國ニ、居正ハ日本ニ外遊スルニ至レルカ右一派以外ニ

於テ執行委員タル胡漢民、孫科、伍朝樞等ノ最近渡佛セル等ノ事

情ニ依リ第四次執監會議ハ蔣介石一派ノ努力ニ拘ハラズ容易ニ開

會スルヲ得サリシカ結局廣東派委員一部ノ参加ヲ認ムルコトニ決

リテ法定數ノ委員ノ出席ヲ得ルコトナリ
兎モ角一月三十一日ヨ
リ聯席會議ヲ開キ居レリ

四、廣東ニテハ各地ニ於ケル共產黨ノ蠢動モ止ミ張發奎軍モ省外ニ
驅逐セララルニ至リ李濟琛ハ共產黨事變ニ依リ破壊セラレタル省
財政ノ回復ニ努メツツアリ

五、一月初ヨリ奉天省通化及臨江方面ニ蜂起セル木刀會ハ奉天省

天ヨリ吳俊陞等討伐ニ向ヒタル結果最近殆ント鎮靜ニ歸シタリ。

電
信
案

外
務
省

幸ヒ邦人ニハ擧クヘキ程ノ被害ナシ。
例

(原稿用紙乙)



電信寫

(分類 16.151-2)

昭和3 一一三七 暗

沙面 本省

二月四日 前署

田中外務大臣

第一三號ノ一



森田總領事

唐生智ノ殘軍各部隊ハ程潛ノ率ユル征西軍ニ壓迫セラレ廣西派打
 倒ヲ標榜シテ南下シ李品仙ノ部隊ハ湖南永州ヨリ廣西境ニ向ヒ何
 健劉興ノ兩部隊ハ一路廣東境ニ進出セントシツツアルヤニ傳ヘラ
 ルル折柄最近東江ニ敗レ閩南及江西境ニ彷徨セル張發奎軍ノ反響
 說モ市中ニ流布セラレ廣東省ニ於ケル政局ハ樂觀ヲ許ササル狀態
 ニアルヲ以テ事情ヲ鑑ムル爲本日李濟陳ヲ往訪シタルニ李ハ本省
 ノ質問ニ對シ左ノ通内話シ樂觀的説明ヲ加ヘ居タリ

電報件名 支那内乱關係一併
 別冊國民革命軍世系圖係

張軍ハ東江ノ敗戦ニ依リ其ノ主力ヲ失ヒ江西東南部ニ潰退シタルカ目下彈藥ニ大缺乏チ來シ居レルヲ以テ到底反撃ノ實力無シ結局福建又ハ南京方面ニ赴ク事トナラム

湖南西部ニ敗退シタル唐生智軍ハ目下張軍ノ陣營ヲ去ル約千數百支里ノ地ニアリ兩軍ノ聯絡頗ル困難ナレハ兩軍力合作シテ廣東軍ヲ攻撃スルハ至難ニ屬ス（續ク）

昭和3 一一三八 略

廣東 本省

二月四日前着

重

田中外務大臣

森田總領事

第一三號ノ二

張發奎ハ江西ニ入ルヤ朱培德ノ態度不鮮明ナル爲メ宋ニ對シ自分ハ
北伐ニ參加シ度キ希望ヲ有スル旨ヲ告ケタルニ宋ハ電報ヲ以テ之
カ拒否ヲ蔣介石ニ問合セタルカ右ノ結果蔣ハ本月二日電報ヲ以テ
俞ノ意見ヲ徵シ來レリ俞ハ未タ之ニ對シ回答セサルモ俞トシテハ
成ルヘク張軍ヲ撲滅シテ其ノ禍根ヲ絶ツコトヲ希望ス但シ潰走シ
タル一部ノ殘兵力北伐ニ加入スルコト位ハ敢テ反對セサルヘシ
ニ要スルニ張軍及唐軍ハ白崇禧軍ノ爲進撃セラレ尙一方錢大鈞、

徐景唐、黃玉章、伍廷鵬等ノ率ユル廣東軍ノ迎撃ニ遭ヒ捕ト爲セ
居ル有様ナレハ右兩軍ハ防備相當國々廣東ヲ攻撃スルノ餘地ナカ
ルヘシ

廣東ニ於ケル共產黨工人ハ大部分既ニ處分済ナルカ今後モ不慮
分子ハ發見次第處刑スル方針ナレハ軍事多端ノ此際共產分子ニ於
テ後方ヲ擾亂スル方難キコトハ絕對ニナシ云々

北京、上海へ轉電シ汕頭、香港、厦門、南京、漢口へ暗送セリ

(分類 16.1.5.1-2)



昭和3 一一六六 略

廣東 本書

五月五日 前著

森田總領事

田中外務大臣

第一二號

蔣介石ト李濟霖ノ關係ハ廣西派勢力ノ消長ト至大ノ關係アリ延テ
當地政局ニモ影響スル所大ナルヲ以テ從來李ト會見ノ都度夫トナ
ク李ノ內意ヲ確ムルニ努メ來レルカ李ハ常ニ表面蔣トハ從前通り
友好ノ關係ニアリト述ヘ蔣ニ對シ左シテ惡感ヲ有セサルヤノ口吻
ヲ洩セリト唯張發奎ノ當地ヲ撤退スルニ當リ蔣ノ命令ニ依リ北伐
軍費トシテ香上銀行ニ預金シタル七十萬元ヲ李濟霖ノ基金ニ依リ
廣西派ニ於テ英國官憲ヲ動カシ沒收シタル事實ハ一月十六日機密

記録係
支那内務部
廣州
民國三年
五月五日
森田總領事

第二號捕信參照）ハ廣西派ノ浙江派ニ對スル挑戰ト認メ得ヘク又
李ニ物質上精神上共大打撃ヲ加ヘタル張發奎ヲ蔣ニ於テ庇護ノ態
度ニ出ツソアルハ李ノ最不快トスル所ナルハ想像ニ難カラサル處
捕信第一三號第三項所報ノ件ニ關シテモ李ハ本日本官ト會見ノ際
蔣介石ニ於テ張發奎ノ北伐容加許容ノ遺憾ヲ有スルモノト解シ不
滿ノ色ヲ表ハシ居タル有様ナルヲ以テ勢々李、蔣間ノ感情ハ最近
ニ至リ愈々面白カラサルニ至レルモノト看取セラル
夫レカアラヌカ消息通ノ賄ル處ニ依レハ廣西派ニ於テハ湖南湖北
廣東廣西等打ツテ一團トナシ蔣ニ富ラントノ野心ヲ有シ居ルトカ
ニテ白崇禧ニ於テ湖南ニ地盤ヲ作ラントシツツアルハ蔣一派ニ取
リテハ一大脅威タルヲ失ハサルヘシ要スルニ右浙江、廣西、兩派

ノ關係ハ當分當地政局ニ直接ノ影響ヲ生セサル見込ナルモ南方政
同ニ一ノ暗流ヲナスモノト認メラル
在支公使、上海へ轉電シ香港、汕頭、廈門、福州、漢口へ暗送セ
リ

電信寫

(分類 46.15.1-2)



昭和3 一一八七 晴

廣東 本省

二月六日前着

田中外務大臣

森田總領事

第一五號

往電第一三號ニ關シ

本月四日韶關電信局發當地第八路總指揮袁克象報ニ依レハ何健
軍ハ去ル二日宜章ヲ陥レ次ヲ平石ヲ占領セル趣ナルカ目下同方
面ニ於ケル廣東軍ノ配備ヲ見ルニ僅ニ范石生軍ノ主力ノ外方縣
英軍ノ一部及第五軍ノ一部隊アルノミニシテ梧州駐屯ノ龔元傑
軍目下江西ヨリ北江ニ進軍中ナルモ目的地到達迄ニハ相當時日
ヲ要スルヲ以テ廣東軍ハ當地ヨリ援軍ヲ急派シテ同方面防備ヲ

記錄件名

國民軍ノ進軍ノ件

固ムルコトナレリ

昨四日宴會ノ席上ニテ張第八路軍參謀長ハ高井ニ對シ陳銘樞ノ
第十一軍ハ張發奎軍ノ廣東省境敗退ヲ見極メ油頭ニ引揚タ五日
同地發六七日頃同地ニ來着ノ筈ナル曾部レル處右何健軍ノ消息
ハ當時司令部ニ到達シ居ラサリシモノノ如シ從テ第十一軍ハ北
江方面ニ移動スルモノト觀測セララル

蔣介石派ト目セラルル陳銘樞ノ廣西派ニ對スル態度不鮮明ノ折
柄萬一何健軍攻撃ニ對シ蔣介石率濟深間ノ協調不能ノ場合ハ張
發奎軍ニ何健軍ト兼應ノ機ヲ與フルコトナリ當地政界ハ再ヒ
動搖ヲ免レサルヘシ

北京、上海へ電報ヲ香港、汕頭、厦門、福州、南京、漢口へ暗送
セリ

(分類 A6.1.5.1-2)



昭和 一 一九九 晴

汕頭 本省

二月六日 後着

田中外務大臣

副府領事

第八號

陳銘鑑ハ本月三日徐景唐ト共ニ當地ニ凱旋ニ、三日中ニ赴粵スル
善ナリ四日同人ノ談左ノ如シ

江西ノ張發奎殘軍討伐ハ黃紹雄之ニ當ル事トナリ二日揭陽ニテ黃
ト打合ヲ了シタルニ依リ今後ハ專ラ東江治安ノ維持ニ當ルヘタ目
下粵事ヨリ陸豐方面ニハ其產黨及^匪匪猖獗シ居リ繼リタル勢力チ
有セサルモ地域廣キ關係上徐景唐ト協力討伐スル事トナリ本日は揭
陽ニアリシ徐ノ一部隊ヲ同方面ニ差向ケタリ第十一軍ハ現在河

記
乙氏
丙氏
丁氏
戊氏
己氏
庚氏
辛氏
壬氏
癸氏

惠州方面ニ駐在シ居ルモ將來本駐防地へ自分他事務ニ決定ノ旨アリ
在支公使。上海へ轉電シ廣東、香港、福州、厦門へ轉達セリ

極秘

(分類 16.1.5.1-2)

亞細亞局

奉天情報一五九號

昭和三年二月八日

情報課長 殿

袁金龍氏、時局談

(一) 南北和平問題、抬頭

(二) 楊宇霆、第三四方軍團長就任

(一) 南北和平問題、抬頭

最近南北和平問題の抬頭に、米、國民黨系直隸系安福派

等、色彩の錯綜、政界に波紋を描いて居る。黎元洪曹錕段

第一課乙

昭和三年貳月拾七日發

奉天公所長 鎌田彌助



棋瑞等ノ所謂元老カ其ノ渦中ニ在ルノテハナク其ノ輩下ノ
乾分カ何レモ自己本位ノ打算カラ策動シテ居ルニ過ナク
テアツテ眞ニ國家觀念カラ和平統一ヲ企劃シテ居ルモノナ
ナイコトハ少シク北京政情ヲ知ル者ニハ容易ニ首肯シ得ル
所ヲアル。縱令此方ノ和平運動ニ漸次具体化スルトシテモ
現状カラスレハ時機尚早ナルト云ハサルヲ得ナイ。即チ
張大元帥ノ肚裡ニ此方於ケル自己ノ地位ノ現況ヨリ尚
一層鞏固ナランメヲ爲シハ南北ヲ二分シテモ可ナリトノ考ケ

潜シテ居ル様ニモ見ヘルカラ猶更困難ナル。

自分ノ滞京中王士珍ヲ中心トシテ奉晋妥協ノ策分カ
サレテ居ツタカ之レトテモ至難ノ問題ナル。

山西

閻錫山カラ見レハ今日迄保境安民ヲ「モツト」トシテ終

シ強兵ヲ養ヒ財ヲ貯ヘ且ツ山嶽重疊ノ天嶮ヲ擁ルテ居

ラ縱令奉軍數十萬ノ精銳ヲ以テシテモ容易ニ陥落シ得

ノミナラス山西省ノ現状カ何レノ方面ヨリシテ奉軍大

ルモノデナイトノ確信ヲ有セテ居ル。

閻氏自身ニ於テハ人格的ニ張大元帥ニ對シ何等敬意ヲ持

ハスノミウ些々ニ信ヲ措イテ居ナイカラ不利益ノ條條ニ

服シテ迄テモ和ヲ講シナケレハナラヌト云フ必要ハ固ク

イニ違ヒナイ。加シ山陰、從來ノ國民黨トノ關係上今直チ

ニ青天白日旗ヲ撤去スルコトニ行懸上至難テアラウ。

一步ヲ讓ツテ王士珍等ノ調停力或程度迄具体化スルトシ

テモ叙上ノ事實ニ鑑ミ彼レトシテハ或ハ双方カラ數名代表

ヲ派遣シ委員制度ヲ採用シ北方ノ和平解決ヲ爲サント云フ

カ如キ逆襲的條件、提出テモ爲スコトナレハ這ハ張大元
帥、則チ、裏切ルモノヲ結局張氏ノ下野ヲ前提トスルコト
トナルカ、則チ承認スル所トナラナイテアラウ。

閻錫山ノ部下ニ故田應瑛ノ如キ學德兼備ノ人物カ居タラ
ハ兎モ自現在ノ如ク若輩ノミテハ內的統一サハ困難チアル
況ンヤ對今交渉カ円滑ニ進展シ得ルモノトハ考ヘラレナイ。

此次ノ對今次裂モ畢竟閻錫山ヲ圍繞スル若手將校等ノ該

論ニ動カサレタ感カマル。

奉天側ハ對山西和議ヲサヘ尚且ツ以上ノ如キ幾多ノ困難

ヲ伴フ、テアルカラ南北和平ニ至ツテハ前途極メテ遼遠テ

アツテ殆ント夢想ヲモ許サナイ事ニアル。然レナカラ極大

元帥カ一切ノ功名心ヲ捨テ下野スル決心テモツケハ或ハ政

局ノ一大轉機トナツテ和平統一ノ氣運ヲ促進スルニ至ルカ

ミ知レナイカ這ハ至難中ノ難事テアル。

二) 楊宇霆、第三四方面軍團長就任

韓麟春カ突如腦溢血ヲ倒レタ、テ舊年内ニ親シク其ノ病

床ヲ見舞ツ。未タ意識不鮮明テ言語サヘ發シ得ナイ狀態
テ遂ニ、疾人ナルヲ免レナイテアラウ。

楊宇霆、第三四方面軍團長ニ就任シタコトニ就テ次ノ如
ク確信シテ居ル。

楊宇霆
奉軍中ヲ韓軍長ノ後任トシテ最適任者ヲ物色スル時ハ楊

宇霆于珍于國翰、三人ヲ出テナイ。于珍ハ山西ニ捕ヘラレ

于國翰ハ軍事ニ於テハ遺憾ナキモ政治的方面ハ殆ント無理

解ト云ツテモヨイ位デアルカラ各省代表等ト、樽俎抗衡

場合ナトニハ不使ノ莫ク少クナイ。楊宇霆ニ至ッテハ政治
的ニモ將又軍事的ニモ優秀ナル手腕ヲ有シ帝ニ大元帥ノ惟
惟ニ參シ奉天側ニ於ケル最適任者ナルコトハ勿論ナル。

此次同軍團長任命モ大元帥々馮玉祥及閻錫山ニ對シテ第
三各方面軍ヲ學良一人ニ任リ置リ事ヲ成元ナク感シタ結果
特ニ楊宇霆ニ推挙シタモノデアラウ。又一方第三各方面軍
ノ内部乱脈ノ噂サカアルノテ大元帥ハ楊ヲシテ親シク視察
セシメ場合ニ依ツテハ其ノ改造ヲ斷行スルノテハナイカト

モ考ヘ得レ

外間ニテ往々張學良對楊宇霆ノ關係ヲ顧慮スルモノモアルカ若シ楊ノ就仕カ大元帥ヲ推挽ニ基クモノトセハ學良ハ雖モ如何トモスル事ハ出来ナイテアラウ。

一説ニ舊年末軍事會議ノ席上張學良々推薦シタトモ云ハレテ居ルカ之レカ事實トナレハ猶更問題ハ起リ俾ナイ譯分唯茲ニ一ツノ問題ハ楊カ例ノ氣性ヲ用捨ナク幹部ノ取換テモ行ヒ自己努力ノ擴張ニ没頭スルナラ勿論両者ノ感情ハ

圓滑ヲ期セラレナイハカリク韓軍長ノ部下ヤ故郭松齡ノ殘
党等ハ或ハ報復的手段ヲ講ズルニ立到ラナイトモ限ラナイ。
ソウナレハ内部ノ不統一ヲ暴露スル譯ヲ恫巧ナ場ハ決シ
テ急激ニ斯ノ如キ愚策ヲ採ラズアラウ。

虛心坦懷ヲ見テ這次楊ノ任命ハ所謂適材適所ヲ內的ニハ
多大ノ權威ヲアルト同時ニ外的ニハ非常ナル脅威ヲ與フル
事ハ何人モ否ム事ノ出來テイ事實ヲアル。

社外發表謝絶



(分類 A6.1.5.1-2)

昭和3 一三九七 晴

漢口 本省

二月十二日前着

亞

田中外務大臣

高尾總領事

第六八號ノ一

十日鄭州ヨリ歸來セル田島ヨリ左ノ通り

貴電第一號ニ關シ本官客月三十一日鄭州著外交署長唐悅良ノ案内

ニテ本月三日新郷(鄭州ノ北、道清鐵道トノ交叉點)ニ馮玉祥ヲ

訪ヒ偶然ニテ劉鎮華、孫連仲ノ二總指揮及王正廷、崔士傑トモ會

談シ越ヘテ六日開封ニテ ^{ハバクトクシツ} 外四名ノ河南省政府委員ト

又鄭州ニテハ總參謀長劉驥其他 ^{ハバクトクシツ} 士モ會談シ同時ニ前記各地方ノ一

般狀況ヲ觀察セルカ御來訓ノ各點ハ

記錄名 支那の亂國情勢
國民革命軍の北伐國原

(一) 鄭州地方一般狀況ハ鐵道沿線ニアリテハ可成り軍事輸送辦カラ
サル爲メ戰時氣分相當濃厚ナルモ田野ハ見渡ス限り耕作行國々
鄭州、新鄉、開封ノ市街店舗ハ比較的平和氣分ニテ常ノ如ク其
ノ業ヲ營ミ居ルモノノ如ク觀察セラル尤モ客年六月馮軍河南入
省以來鄭州ノ如キハ二百五十萬弗見當ノ軍費ヲ強制徵收サレタ
ル外諸税ハ概シテ約二倍ニ加重サレ且新税起リ爲ニ一般住民ハ
其ノ負擔ニ苦シミ恐慄ノ念中々散烈ナルモ周倒ナル馮軍ノ密偵
ヲ惧レ私語スラ罰ミ居レリトノコトナルカ今總化一擔ヲ鄭州ヨ
リ漢口迄運出スル場合ニ於ケル諸税ヲ見ルニ樊佩孚時代ニアリ
テハ計一弗四十仙現在ハ五弗五十仙ニシテ富強者ハ僅少ノ利益
ヲ見ルニ過キスト云フ

(二) 九日迄ニ於ケル馮軍ノ狀況ハ鹿鐘ヲ主將トスル馮ノ主力部隊
ハ直隸省幽州ニ至リテ京漢線方面ニ劉鎮華部隊ハ同省大名ノ南
方二、三十支里ノ地點ニ至リ保燭齊部隊ハ山東省曹縣ヲ併セ
本部隊ハ方振武部隊ノ到着ヲ待チ京漢線方面ノ主力部隊ニ合ス
ル豫定ナリト云フ一方振武部隊ハ滄海線歸德方面ヨリ津浦線ニ
沿ヒ南京軍ト策應シツツ北進(本部隊ハ目下京漢蘭海ノ二線ニ
依リ盛ニ歸德方面ニ輸送中ニテ方自身ハ今尙信陽ニアリト云フ)
スルノ形勢ニアル處本官ノ目撃セル馮軍主力部隊ノ素質ハ南京
軍ニ比シテ各規律ニ於テ優リ武器ハ不足ノ如クニシテ大刀隊拳
銃隊等アリ而シテ目下北方トノ戦争ニ参加シ居ル兵數ハ二十萬
ト稱セラルルモ各種情報ニ照シ十二三萬見當ナルヘシ尙馮軍ノ

給與ハ俸給ハ永キハ二、三年ニ置リ米穀ナルモ通食ナ
ナク配給サレ居ルモノノ如クニシテ軍兵ノ食糧ニ充テ
ヘス識テ焉ノ内政外交ヲ見ルニ内政ニアリテハ一次ノ統一
ノ膏血ナレハ税賦スヘカラスト云フヲ第一ノ目標トシテ外交ニア
リテハ平等協約締結ヲ第一ノ目標トシテ之ヲ各人軍服上ニ
施ヒツテ居レリ將又河海ハ紅海爾其他ノ結社至ル處ニ存在シ居
ル處迄ハ極端ニ守テ之ヲ之カ操縦ニ當ラシメ其ノ方針ハ之等
結社カ自衛團的性質ナルニ應ヒ組織的ヨリモ消極的利用ニアリ
ト洩レ聞ケリ（續ク）



附 三 一四〇七 電

漢口 本宿

二月十二日 附

田中外務大臣

高尾橋領事

第六八號ノ二

(三) 湖北前配本官トノ意見ニ於テ革命軍ハ孫文ノ委囑ヲ遵奉シ民衆ノ利益ヲ唯一ノ目的トシテ奮起セルモノナレハ張作霖、張宗昌、孫傳芳等ノ軍閥ハ是非共打倒セサルヘカラス要項ニ對シテ強硬ニ對峙シ居ルヲ以テ張等ハ永ク現在ノ地位ヲ保持シ得サルヘク大體茲ニ箇月内ニハ北京ヲ回復シ得ルヲ確信ストスルヲ以テ廣東事件湖南事件並ニ南京武漢兩者間ノ關係ヲ如何ハ單一ノ小事ニ遇サスルヲ革命ノ前途ニ對シテ如何ニ影響ヲ與ヘルコトヲ考ヘテ

記錄件名

非サレハ放任シ置キ差支無ク從テ其過中ニ控スルヲ好マサルモ
華山ト共ニ蔣介石ヲ革命軍ノ首領ト仰ク事ニ關シ通電ヲ發シ
華政府トハ完全ニ連絡ヲ保チ居レリト謝言セリ次テ

本官ハ我方ノ革命軍ニ對スル態度竝ニ山東出兵ニ關スル事情ニ
對シ分斷ニ徹底セシメ置キ共ニ客月二十一日總督ニ於ケル貴
大臣ノ外交演說漢語文ヲ事外交署長ヲ讀シテ譯ニ手交セリ暫ク
ニ本國ハ本官ニ對シ俄國對自人間ニ戰爭を起スヘキハ當然ノ成
果ナレハ蘇ハ兩國ハ蘇ス其關係セサルヘカラス右提攜ノ第一歩ト
シテ不平等ヲ、懸礙ノ速カナム事ヲ期スト述ヘタルハ以テ本
官ハ自愛重シテ對ハ俄國對蘇關係ニ其キ締結サレタルモノナレ
之ヲ改修ノ要アル場合ニハ是亦國際條理ニ準據シ且兩國間ノ

實情ヲ考査シ適當改修スルニ本國政府ハ吝ナルモノニアラサル
ヲ信スト答ヘケルニ海ハ諒承ノ上本官歸國ノ節ハ貴大臣ニ對シ
民衆ノ利益ヲ顧念スルモノト單ニ個人ノ利益ヲ顧念スルモノト
又新思想ニ立脚スルモノト舊思想ニ囚ハレ居ルモノトノ間ニ存
スル相違ヲ充分考察ノ上日支兩國ノ爲必要且適當ナル政策ヲ樹
立セラルル様希望ニ堪ヘサル旨傳達セラレタシト述ヘタル後語
ヲ轉シテ過般迄ノ革命軍内ノ抗爭ハ一ニ「ボロジン」ノ所ニ
起因セルモノナルカ今ヤ彼ヲ驅逐シ且歸國ト國交ヲモ斷絶シタ
レハ露國ニ乘セラルル憂無シトテ熱心ニ露國ト關係無キヲ切言
セリ右ハ彼ノ子二人カ今猶露國ニ留學シ居ル由ナルト武器供給
ヲ他ニ仰クノ困難ナル等ノ事情ニ鑑ミ直ニ肯定シ難キヤニ懸念

セラル

(五) 前記諸カ本官ト會見ニ於テ彼等ノ日本ニ對スル感情ニ付本官ノ
得タル印象ハ彼等ハ方今支那ト列國トノ現關係上執レモ日支關
國ノ親善提携ヲ深ク希望シ居ルモノノ如クニシテ現ニ斷外交變
長ノ如キハ内閣ナリト斷言シテ北伐進行スルモ戰略上萬已ムテ
得サル場合ハ格別トシ出來得ル限り濟南方面攻撃ハ濟寧ニ止メ
其主力ヲ直隸ノ平 二 津 石家莊ヨリ大名德州間ヲ通スル線ニ
於テ決戦スル豫定ナリト語レルニ照シ(目下之カ準備ニ忙殺サ
レ居レリト云フ) 馮ハ山東ニ於ケル我立場ヲ瞭解シテ我ノ國情
収付ニ留意シツツ在ルモノト察セラル
在支公使。上海。濟南ニ電報セリ

電信寫

(分類 46.1.5.1-2)

昭和3 一六四七 略

漢口 本省



二月十八日發達

田中外務大臣

高尾總領事

第七九號

當地民國日報ノ所報ニ依レハ蔣介石ハ隨員何成濬、孔祥熙等二十餘名ト共ニ離海線ニテ十六日開封著（馮玉祥王正廷馬福祥等蔣ノ一行ヲ蘭封ニ出迎フ）午後中山俱樂部（省政府）ニ於テ民衆團體ノ熱誠ナル歡迎ヲ受ケ十七日舊督軍署内ニ於テ蔣馮及閻錫山代表シユランニイトノ間ニ北伐前軍事會議ヲ開キ一ヶ月内ニ共同北伐ヲ決行シ二ヶ月内ニ北京ヲ攻略シ奉魯軍伐打倒ノ大計ヲ商議セリト

北京、上海、濟南、天津ニ轉電セリ

北伐軍ノ北伐圖生

原書、支那地政況

(A 6. 1. 3. 1)

ニ在リ

寫

(分類 16. 1. 3. 1-2)

昭和3 一六三八 略

廣東 本省

二月十八日後着

照

田中外務大臣

森田總領事

第二〇號

張發奎軍ノ討伐ヲ終ヘ本月八日汕頭ヨリ來廣セル陳銘樞ハ本月初旬
 來省政府首席委員ニ就任スヘキヤニ傳ヘラルル處現ニ首席委員タル
 李濟琛亦第八路總指揮トシテ本職ニ專念シ首席ノ兼務ヲ陳ニ讓ル内
 意アリテ其ノ就職ヲ勸告シツツアリトノコトナル處陳ハ最近蔣介石
 ノ傍系ト見做サレ居リ本人今次ノ來廣ハ蔣カ廣西派ノ目付役タラシ
 ムルニアリト云フ者アリ累次報告ノ通蔣李間ノ關係餘リ芳シカラサ
 ル折柄其ノ首席就任實現ハ可能性ニ乏シト雖陳ノ行動ハ相當注目ニ

記録件名

廣東省政府秘書長

外務省

6. 18



161530

0372

値スルモノアリ依テ本日陳ヲ往訪シ其ノ意見ヲ叩キタルニ陳ノ極秘
トシテ本官ニ語レル處左ノ通

一 自分ハ蔣政府一員トシテ今後廣東省防備ニ力ムル考ヘニシテ恐ラ
ク南路總指揮タルヘシ

ニ 自分カ南路ノ防備ヲ擔當スル場合ニ於ケル廣東省防備ノ配置ハ東
江ヲ黃玉祥北江ヲ陳濟棠西江ヲ徐景唐ニ於テ夫々擔當スヘク省政
府ハ右ニ依リ外敵ノ侵入ヲ防キ專ラ省内ノ立テ直シニ力ムル豫定
ナリ

三 汕頭ハ既ニ平靜ニ歸シタルヲ以テ目下同地附近ノ土匪並共產黨討
伐中ナルカ海豐及陸豐ノ共產黨政府ハ廣東事件以來討伐ヲ受ケタ
ルコトナキヲ以テ同時ニ討伐セシムル計畫ナリ

張發奎ノ殘軍ハ兵力六千位ニシテ目下江西省東部ニ集中シ居レリ
南京政府ハ既ニ廣東省政府ノ同意ヲ得同軍ヲ北伐ニ參加セシムル
コトトナレリ（往電第一九號第三項參照）

蔣介石、白崇禧兩人間ニ意見ノ相異アルハ事實ナルモ南京政府ト
廣東政府トノ關係ハ文字通り中央政府ト地方政府トノ關係ニアリ
雙方歩調ヲ一ニシ居ルヲ以テ白ハ李濟琛ノ命令ヲ遵奉スヘシ從テ
當省政府トシテハ蔣白間ノ關係ハ左程問題ト爲シ居ラス

六程潛、白崇禧兩軍ハ兩湖ノ問題ヲ解決次第北伐ニ參加スヘキ處目
下北伐軍ノ兵力ハ充分ナルヲ以テ廣東軍ハ此ノ上兵力ヲ補充シ專
ラ廣東省内ノ整理ニ當ル豫定ニシテ自分ハ當分廣東ニ止マリ南路
又ハ東江執レカ一方面ノ立直シニ從事スル考ヘナリ云々



大臣

次官

電信課長

歐通條文人會
米商約報化事計

先送

861202 / 812.20711 (Am 6/1 50 / - <)

昭和3 一七九三 晴

南京 本省

廿三日後發
二月廿四日前着

亞

田中外務大臣

田島領事

第一六號

本三日間本領事ヲ紹介ノ爲總司令部ニ張群ヲ國民政府ニ李烈鈞ヲ訪問セル際本官ハ張群ニ向ヒ過般蔣介石、馮玉祥會見ノ内容ニ付質問シタルニ右ハ革命ノ進展ニ連レ蔣ニ於テ馮ト親シク意思ノ疎通ヲ計ル傍馮軍ノ狀態ヲ篤ト觀察スルヲ要ストセルモノナルカ勿論北伐ニモ談及サレタルモ何等具體的決定ヲ見タルニ非ストテ深ク語ラス李烈鈞ニ對シテハ昨二十二日ノ國民革命軍日報ニ同人ノ談話トシテ馬伯源其他在日學生ノ報告ナリトテ日本軍閥力張

接

名件

Handwritten notes in a vertical box, including the characters "名件" and various illegible scribbles.

作霖ニ軍器ヲ供給セル外多數下級武官ヲ送り張ヲ援助ス云々トノ
記事アル處果シテ右ハ貴下ノ談話ナリヤ若シ談話ナリトセハ甚タ
面白カラスト言ヒテ其返答ヲ求メタルニ鮮カラス困却ノ體ニテ新
聞社ハ勝手ニ敷衍シ困ツタモノナリト答ヘ尙同席セル陳銳（日本
陸軍大學出身）ハ早速新聞社ニ對シ適當訂正方取計フヘシトテ顧
ル恐縮ノ體ヲ示セリ尙又往電第一四號後段ノ各部長ハ昨二十二日
ノ中央政治會議ニ於テ薛篤弼（馮ノ系統）ヲ內政部長ニ易塔基ヲ
農工部長ニ孔祥熙ヲ工商部長ニ于右仁ヲ審計院長ニ（馮ノ系統）
決定シ近ク中央執行委員會及國民政府委員會ノ議決ヲ待テ發表ノ
豫定ナリトノ旨新聞ニ發表サレタルカ右顧觸ニ顧ミ最近南京政府
ニ於テ馮ノ勢力ヲ重大視スルニ至リタルモノト察セラル

公信第一七六號

昭和三年二月二十四日

在上海

總理事 矢田七太郎

外務大臣男爵 田中 義一 閣下

國民政府改組後最初ノ軍事委員會大會

開催ノ件

二月二十三日國民政府改組後最初ノ軍事委員會大會開催セラレ、
北伐ノ軍費ノ調達、並ニ兵力ノ補充及常務委員會事務所ノ新設（
從來ノ主席團事務所ハ之ヲ取消ス）ハ五項ヲ決議シタルカ蔣介石ハ右大
會ニ於テ演說シ「今ヤ政府ノ組織完成シ中央黨部ノ人選モ決定シ政治及

昭和三年三月六日

在上海日本總領事館



161530

0379

黨務ニハ既ニ責任ヲ得タルヲ以テ余ハ今後軍事ニ専念シ最短期間ニ北
伐ヲ完成スヘシ軍費ニ關シテハ目下財政當局ニ於テ積極的ニ研究中ナリ
ト述ヘ最後ニ馮玉祥トノ會見狀況ヲ報告シ西北軍ノ士氣ヲ稱揚スル能
所アリタル趣ナリ

右報告ス

本信寫送付先

北京 漢口 廣東

(分類 A 6.1.5.1-2)

昭和3 一八六一 略

福州
本省

二月廿六日後著

田中外務大臣

島田事務代

第一一號

北伐ニ参加スヘキ錢大鈞ノ部隊（兵力約四千）ハ既ニ廣東省境ヲ
越ヘ上杭ニ達シタル趣ナルカ近ク汀州ヨリ延平、浦城ヲ經テ浙江
ニ入ル豫定ニテ當省政府及呂公望ノ諒解ヲ求ムル爲メ錢ハ本二十
五日少數ノ兵ヲ率ヒ當地ニ來リ政府當局及呂ノ代表ト折衝中ナル
カ呂ハ僅ニ二十一軍カ譚曙卿等ヲ武裝解除セル前例ニ鑑ミ錢軍ニ對
シ警戒ヲ怠ラス既ニ全兵力ヲ延平ニ集中シ閩江上流ノ民船徵發中
ノ趣ナリ

北京、杭州ニ轉電シ上海、南京、廈門ニ暗送セリ

支那
福州
二月廿六日後著

(分類 A 6. 1. 5. 1-2.)

昭和3 一九三七 略

本署 福州

二月廿八日後着

田中外務大臣

第一二號

往電第一一號ニ關シ

應興邦ハ錢大鈞軍ノ延平通過ニ大體同意シタルモ實警戒ヲ嚴ニシ
其主力ヲ延平ノ南方尤溪方面ニ異動シツツアル趣ナルカ一方錢軍
ハ汀州ヨリ延平ヘ向ケ前進中トノ情報アリ結局杭州ヲ經テ南東方
面ヘ出ツルモノト觀測セラル南錢ハ海路上海ヘ向ヒタル形跡アリ
在支公使ハ杭州ヘ轉電シ上海、南京、廈門ヘ暗送セリ

記錄件名

支那内亂系件一
別件別件別件別件別件

島田事務代理

16.15.1-2

612.0051

記録付

昭和五年五月五日

在蘇州

領事館事務代理松村雄藏



第振外務大臣男爵田中義一殿

蒋介石其他南軍要人、動静

ニ関シ報告、件

突如杭州方面ニ赴キタル蒋介石、何處歟一行ハ昨日午前一時五十分當地通過據報アリ、

途ニ就キタリ

尚ホ今西北伐軍ニ參加スルコト、ナリト云ハレ

三十二軍長鐵大約ハ不日歸還ノ上可也。
向フ由ニテ同人ノ母校タル當城地小學校ニ
於テハ目下其ノ歡迎準備中ナリ

本信寫送附先

在支公使、

在上海總領事、

在杭州領事、

電送第 自 1384 號
 3年3月7日 / 時 30分

西長
 2月

電信課長

電信課

主 情 報

任 主

情 報 課

(昭和五年三月六日)

(原稿用紙)

件

支那時局ニ關スル件

名 込 録

宛

在英、在米、在伯各大使
 在新加坡及浦鹽各總領事

田 中 大 臣

平 函

合 第

四 二

號

「支那情報」

一、最近北京政府ハ羅文幹ヲ外交總長ニ任シ王蔭泰ハ司法總長、姚

慶ハ大理院長、梁士詒ハ稅務督辦トナレリ又南京政府ニテ

郭ヲ外交部長ニ任シタリ

二、國民黨第四次執行監察委員全體會議ハ二月二日ヨリ七日迄南京

ニア開會セラレ黨務、政務、軍事諸機關ノ改組其他ノ決議ヲ爲

シ全體會議宣言ヲ發表セルカ國民黨第三次全國代表大會ハ本年

八月一日召集ニ決シ且蒋介石ハ革命軍總司令兼軍事委員會主席

ニ任セラレ北伐イ期成ヲ計ルコトトナレリ

三、蒋介石ハ二月中旬徐州ニ赴キ第一路軍（總指揮何應欽）ヲ改編

シテ第一集團軍ト爲シ自ラ其ノ總司令ヲ兼ネ更ニ二月十六日開

封ニ赴キ馮玉祥及閻錫山代表ト會シ北伐ノ訂合ヲ爲シタリ

四、馮玉祥ハ近來其ノ主力ヲ京漢線方面ニ集中シ北進ノ機ヲ窺ヒ居

リ北軍ハ東昌大名邯鄲ノ線ヲ維持シテ之ニ備ヘ居レリ

五、白崇禧^{桂督ト云ニ}ハ其後湖南軍ノ掃蕩ヲ續ケ南方ハ豫州及冀

慶ヲ占領シ李品仙、劉興等ノ軍ヲ貴州省境方面ニ逼ヒ又西南

チヤ何健等ノ軍ヲ常德附近ニ於テ南北ヨリ夾撃シツツアリヤ

湖南ハ完全ニ廣西派ノ勢力圈ニ入ラムトシツツアリ

(分類 A 6.1.5.1-2)



昭和3 二二七五

晴

廣東
本省

三月八日後着

亞

田中外務大臣

第二七號

七日當地ノ政府機關紙ハ一日人ノ逆賊修理ニ反對スヘシト顯シ
國民政府軍事委員會發各地省黨部宛通電全文ヲ掲載シ居レリ其ノ
要領左ノ通

張作霖ハ帝國主義ノ走狗トナリ我國民革命軍ニ反抗シ屢々其ノ逆
謀ヲ南下セシメ我陣ヲ窺ヒ最近ノ消息ニ據レハ張和梅聚ノ二匪ヲ
修理ノ爲旅順船渠ニ入レタリト云フ之レ外國ノ力ヲ借リテ國家ヲ
毒セントスルモノニシテ國家ノ毒蠱タルノミナラス又我黨ノ公敵

記録件名 支那内亂關係一件
（日中）北伐關係

ナリ然ルニ艦船富國ノ廣度ヲ見ルニ略ニ北方軍國ヲ助ケ我國ノ内
亂ヲ助長シ國父ヲ無視ス依テ吾人ハ日本富國ニ對シ嚴重抗議ノ上
艦船ヲ許サズ日本艦船ニ對シテ港外ニ出ササルヘキ旨總軍
總司令ニ於テ文達被テハ日本艦船ヲ港外ニ出ササルヘキ旨總軍
人ハ此ノ際漸ク嚴正シ一應之ニ反對シ外務省ヲ憤慨スヘキ云々
在文公使。上海ヘ電達セリ

第一課甲

亞細亞局

機密送第六五號

昭和三年三月十四日

在南京

領事岡本一



昭和三年三月廿四日發



外務大臣男爵田中義一殿

國民北伐軍現駐屯地報告件

蔣介石麾下在北伐軍現駐地等別記通御參考並報

告

記

第一縱隊(總指揮劉峙第一第九第十軍)利同驛徐州宿

第一縱隊(總指揮劉峙第一第九第十軍)利同驛徐州宿

612.0050



161530

0390

第二縱隊陳調元第一五、第二六、第三七軍（宿遷、泗陽、清江浦、五河間、但第一五軍ハ他第一師第三一師（旧第六軍内）外一師ヲ以テ編成セルガラン

三、第三縱隊（賀耀組第二七、第三三、第四〇軍）湯陽、懷遠、蚌埠間、但第二七軍ハ夏斗寅ノ新編第十軍ヲ改称セルモノトス

四、以上ノ外第一集團軍直轄ノ独立師ニ三アリ又第四軍（鄒培南）第四六軍（方鼎英）江西、安徽ヲ經テ北伐ニ参加スル標兵モ未ダ前線ニ到着セサルカ如シ

五、西北軍ニ属スル孫良誠軍ハ金鄉、曹州ニ又方振武軍ハ碭山、曹縣、歸德間ニ在リ

尚南京軍ハ大體ニ於テ運河ノ線ニ配置セルモノニシテ第一縱隊ヲ第一線トシ其他ハ第二線ノ姿勢ニ在ルヲ以テ目下盛ニ宣傳

スルカキ北伐總攻撃ノ爲ニ未ク戦畧的展開ヲ完了セザル
モト認ム

六軍兵ノ給料不渡爲軍紀弛緩シ又廢兵ニシテ不平ヲ起
シ電燈線ヲ切斷セシ事件アリタリ而シテ目下日不良兵ヲ
殺シ軍紀ヲ維持ニ努メツヤリト云フ

本信字送付先

公使、上海、漢口、天津、濟南、青島、福州、蘇州、
杭州、蕪湖、九江、長沙、芝罘

電信寫

(分類 46.1.5.1-2)

昭和3 二六六一 略

香港 本省



三月十七日後着

亞

田中外務大臣

第二一號

往來第二〇號ニ關シ

李濟環ハ當地ニ於テ乘船前英漢字新聞記者ノ強ヒテノ質問ニ對シ

左ノ綱旨ヲ答ヘタリト報セラル

今次赴滬ハ二週間ノ豫定ニテ南京ニ於テ蔣ト北伐進捗及廣東復興

ニ關スル打合ノ爲ニシテ最近噂セラルル借款問題ニ關スルモノニ

非ス假ニ借款談アリトスルモ夫ハ廣東ニ關スル事柄ニシテ南京政

府ニ大ナル意義ヲ及ホス筋合ニ非サルヘシ滬寧兩政府ハ他ノ地方

村上總領事

大亂漢口
口外軍
一九四四年
用係

國民政府ト一線方針上何等整頓アルモノニ非ス又兩者乖離ノ處アリトスルハ根據無キ臆斷ノミ參謀總長ノ實名ハ自分ノ既ニ得解ル處ニシテ今更就任シテ軍事ニ止マル意思ナシ茲ノ出征後ハ自分ハ軍事ニ止マリ秩序維持ヲ計ル要更ニ深キヲ加ハル譯ニテ北伐援助ノ當出兵スル如キ事就テ困難ナリ云々

國ニ在る第一七號本國ニ因シ駐歐局長十六日離香セリ省番間無電通報ノ技術的検査ヲ開始トシ語學セル一方實地ノ結果得ル所多大ナリと言語リ居レリ

在支公使、上海へ越電し廣東へ暗渡セリ

寫

讀者附言
原書ハF1922
奥書九號三水林出
連活同係ニリ

(分類 A.6.1.5. 1-2)

昭和3 二六二一 時

廣東 本省

三月十七日 前着

重

田中外務大臣

森田總領事

第三七號

本官發香港宛電報

第三六號

李濟 ハ十四日夜竊ニ貴地ニ赴ケルカ右ニ聞シ市中喧騒多ク或ハ中
央ノ命ニ依リ南京ニ赴クニアラヌヤトノ想像ヲ爲ス向モアリ警察長
ニ就キ確メタルニ數日間貴地ニ滞在ノ上歸來スヘク南京ニハ赴カズ
ト答ヘタリ

用向等不明ナルモ悉ク夕果次大臣宛電報シ置ケル者財政關係重要

記錄件名 國民軍ノ北伐關係

款問題ト關係アルモノノ如ク恩料セラル
大臣、公使及上海へ轉電シ南京、漢口、長沙、瀋陽へ轉送セリ



(原 項 AB-1-1-2)



昭和3 二六四九 暗

沙面
本省

三月十七日後着

森田總領事

亞

田中外務大臣

第三六號

李濟君ノ今次國民革命軍總參謀長及在南京軍事政治學校開校授ニ
任セラントタルハ蔣介石ニ於テ李ノ廣東ニ於ケル勢力ヲ扶植スルヲ
好マス李ヲ南京ニ招致シテ要職ヲ與ヘ以テ當方面ニ於ケル脫西派
ノ地盤ヲ切崩シ其ノ跡ニ自派陳銘樞ヲ擡ヘントシ所謂廣東人ノ願
東ヲ實現セシメ北伐遂行上後顧ノ憂無カラシムル腹ニ出テタルモ
ノト觀測スルモノ多キ處最近李濟深ハ南京ヨリ出向キノ命ヲ受ケ
タルモ赴寧ノ意思無キモノノ如ク李濟深トシテ當地ヲ全然離レ南

支那内亂平定第一件
國民軍ノ北伐關係

京ニ赴任スルコトハ廣西派ノ總盤ニ影響スル處甚大ナリ
中央ノ總參謀長任命ヲ如何ニシテ切放クルヤハ相當注目ニ値スル
ノアリ又前記觀瀾ノ如ク蔣ノ計畫ノアリトシ萬一右計畫ニシテ
斷セハ蔣ノ將來ニ取り一大暗點タルヘシト思考セラル
因ニ數日前歸來セル顧天仇ハ蔣ノ内命ヲ受ケ率ノ行動ヲ監視スル
モノナリト傳ヘラル
在支公使、上海、南京ニ轉電シ香港、汕頭、漢口ニ略談セリ

電信寫



(分類 A6.1.5.1-2)

昭和3 二六六六 略

廣東 本省

三月十九日 後替

並

田中外務大臣

第三八號

往電第三七號ニ關シ

本官本日附教廳長被訪ノ序ヲ以テ李濟黎ノ南京行ニ付確メタル處
廳長ハ李ハ往復二週間ノ豫定ヲ以テ陳銘樞ト共ニ十六日午前出發
南京ニ向ヘル旨答ヘタリ
在支公使、上海、香港、南京へ轉電セリ

長沙防務關係
口民軍、北伐關係

151530

0399

記

原書

原書

又即此方政況千係
難表ニ在リ

馬

往信第六一號

昭和三年三月十九日

在九江領事大和久義郎

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

江西政情ニ關シ報告ノ件

一、江西軍北伐問題ニ關シ各方面ヨリノ情報ヲ綜合スルニ過般朱培德
 歸轍以來從來兎角ノ噂ニ上リ居タリシ本件モ漸ク具体化シ始メ意
 ヲ第三軍第八師第九師及第三十一軍第二十八師ノ三ヶ師ヲ以テ出
 征軍ヲ編成シ第三十一軍長金漢鼎之レヲ統率シ本月末頃ヨリ行動
 ヲ開始シ先ツ徐州蘭縣ニ至リテ待機ノ筈ナリト

二、本月十七日總指揮部ノ參謀ハ新兵募集ノ爲メ當地經由廣東雲南方

内亂平定
江西軍北伐
馬

面ニ向ヒタル趣ノ處全人カ出發前ノ談話ニ依レハ現在江西軍中ニ
ハ多數ノ江西出身兵アリ彼等ハ優柔不斷ニシテ軍隊トシテノ素質
好マシカラサルヲ以テ將來ハ全部之レヲ雲南廣東出身者ヲ以テ代
填ノ筈ナリトノ事ナルカ一面現省政府内情ヲ見ルニ朱培德ヲ中心
トシ軍界主腦者全部並ニ省政府要路者ノ半数ヲ占ムル雲南派ハ民
間有力者ヲバツクトセル江西出身者政府要路者ノ爲兎角統治上難
肘ヲ被リ勝チナルヲ以テ右軍隊ノ改組ニヨリ雲南派ノ實力ヲ鞏固
ニシ江西派ヲ壓ヘ以テ江西軍政ヲ確保セン底意ヨリセルモノト思
考セラル

一、曩ニ南昌造幣廠内ニ上海 *Hugo. Stines* 商會ノ手ニヨリ造兵機ノ
一部カ密送セラレタルハ已報ヘ大正十三年十一月十一日附欄密往

信第六二號参照ノ通りニシテ爾來間斷ナキ政局ノ變轉ノ爲兵器製造ヲ開始スル邊ナカリシ所朱培德江西ノ政權ヲ握リテ以來之レカ改革ヲ企圖シ昨年十二月南昌造幣廠内ニ新タニ兵工實習廠ヲ設ケ兵器ノ製作以外兵工技術者ノ養成所ニ充テ更ラニ逐々規模擴張ノ計畫アリト續ヘラル目下獨立團々長彭武揚全廠々長ノ職ニ在リ若干ノ小銃彈製造並ニ小銃修理ヲナシツツアリトノコトナリ

右報告ス

本信寫送付先

在支公使上海漢口各總領事

(分類 46.1.5.1-2)



昭和3 二七六九 晴

廣東 本省

三月廿一日後着

田中外務大臣

森田總領事

第三九號

李濟軍ノ留守中省政府首席代理タル戴天仇ノ三月十九日本省ニ爲
セル談話大要左ノ通

一 李濟軍ハ蘇介石ノ招電ニ接シ急遽陳銘樞ト共ニ南京ニ退ケリ但
シ永ク同地ニ止マラサル豫定ニテ出發セリ

二 蘇ハ今回徐州邊迄出向キテ直接指揮ニ當ルヘク南京ニアリテ後
方ヲ顧メ得ル適當ノ人物無キ爲メ李ヲ招キテ之ニ當ラシメムト
スルモノノ如シ

記録

王民軍ノ北伐關係

與併シ李ヲ除キテハ目下兩廣政府ノ安定ヲ保テ得ルモノ無キヲ以
テ李カ永ク當地ヲ離ルルハ好マシカラス

在支公使、上海、南京へ轉電シ香港、漢口、汕頭、福州へ暗送セ

亞細亞局

機密送第廿二號

昭和三年三月三十日

在南京
領事閣本一



昭和三年四月四日

別紙添付
附屬書翰



情報部

仁

外務大臣男爵田中義一殿

南京軍北伐現況報告件

當地駐在佐々木陸軍中佐ヨリ入手之南軍北伐現況別
記、通リ市參考迄報告ス

本信字送付先、公使、上海、漢口、天津、濟南、福州、

廣東、青島、蕪湖、九江、長沙、蘇州、杭州、厦門、

汕頭、



161530

0405

612.0050

一編組

(1) 第一線兵團

蔣介石總司令復職後北伐爲事實其指揮下屬之各部隊第一集團軍編成國民革命軍總司令蔣介石第一集團軍總司令ヲ兼部隊整頓ヲ謀ルト共三月下旬ヨリ各部隊檢閲ヲ行フ其戰鬥序列左如シ

第一集團軍戰鬥序列

總司令、蔣中正

參謀長、王緄祖 (日本士官學校出身)

第一縱隊 總指揮、劉峙

第一軍 (劉峙兼)

第一師、第二師、第二十三師

第九軍 (顧祝同)

第三師、第十四師、第二十師

第十軍 (楊勝治)

第二十八師、第二十九師、第三十師

二、第二縱隊總指揮、陳調元

第十七軍 (曹萬順)

第一師、第二師、第三師

第二十六軍 (陳煒)

第一師、第二師、第三師 (旧第六軍第三十一師)

第三十七軍 (陳調元)

第一師、第二師、第三師

三、第三縱隊總指揮、賀耀組

第二十七軍 (夏斗寅)

第三師 第六十五師 第六十六師

第三十三軍 (張克瑤)

第一師 第二師 第三師 第四師 教導第二團

第四十軍 (加貝耀社)

第一師 第二師 第三師 獨立一團 教導二團 (海防)

獨立第三師

(四) 直轄 兵團

第十二軍 (任應岐) 一師 (ミヤラン)

第四十七軍 (高桂滋)

第二師 (ミヤラン)

本軍ハ到着スニ從ヒ第十一路軍ニ附スル

(二) 總豫備

第三十二軍 (錢大鈞)

第一、第二、第三師、

第四十六軍（方鼎英）

第四、第五、獨立第三十師（師部配屬、廖湘雲師、
第三師、改稱セルイラン）

暫編第四軍（綏靖南）

獨立第六師

(3) 後方守備部隊

一、南京衛戍部隊

衛戍司令直轄二團（四十軍）

總司令部警衛隊（步兵二團砲兵二團）

二、上海衛戍部隊

第十三軍、第三十七師

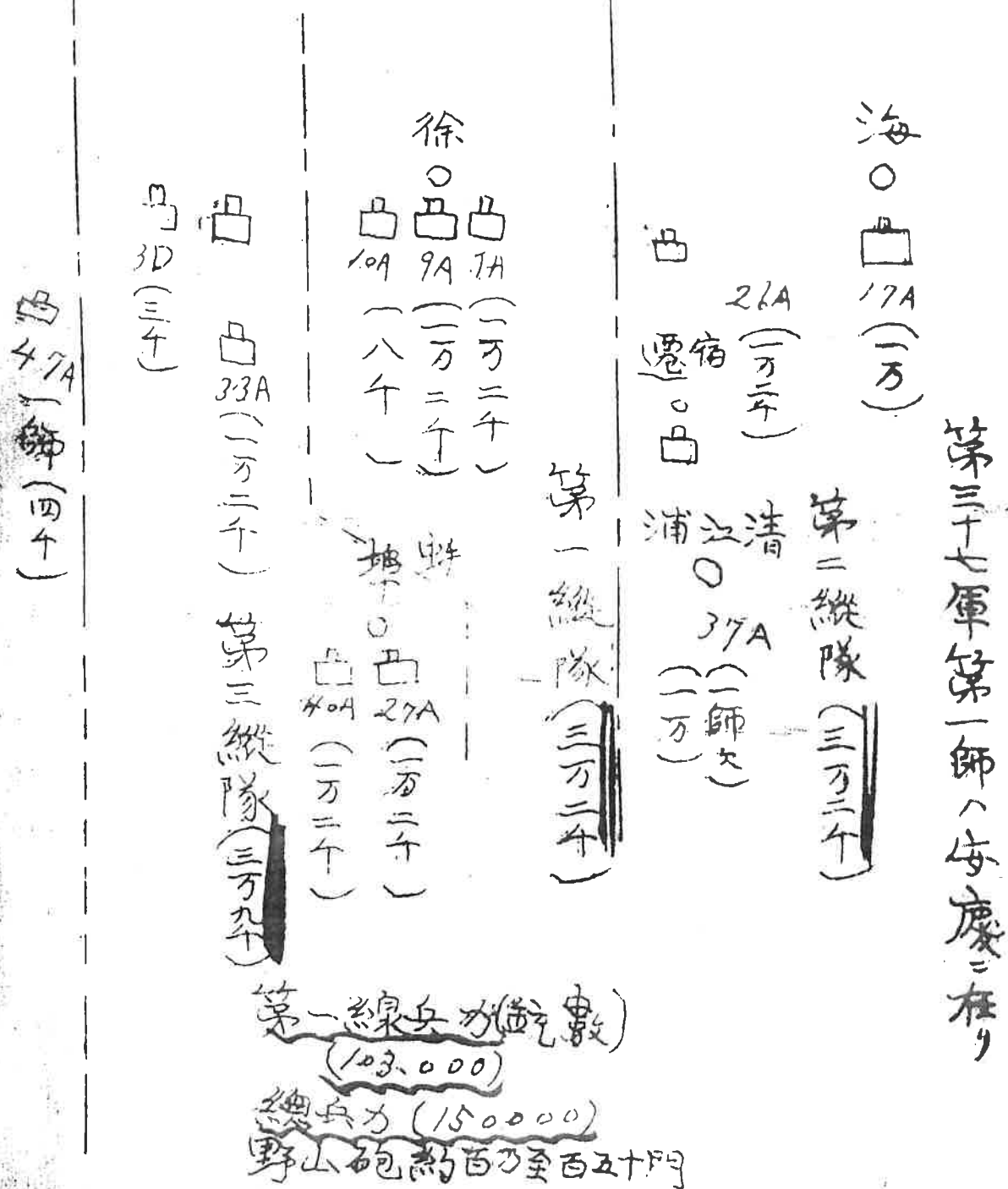
三、滬甯線守備隊

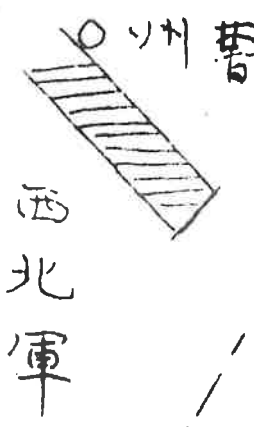
獨立第六師、第九軍補充團（近、第三十二軍、表、管）

註、第十五軍編成豫定ヲ變更シ其一師(李明揚)ヲ第
十七軍ニ編入シ他一師(旧第六軍第三十師)ヲ第二
十六軍ニ編入シ第三師トス
兵力及配置
要圖如シ

北伐軍兵力配置概見圖

於三月十八日





第十一路軍 (三万五千) 方振武軍 (三万五千)
 山陽 〇
 〇 〇 師 (个五百)

註

一、敵軍の銃數ヲ示ス
 二、砲兵の概シテ各軍砲兵團ヲ有ス編成区々ナルモ
 概シテ二營ヨリ成リ一營ハ砲四乃至八門
 三、各師ニ迫撃手砲ヲ有スモ員數不明
 四、方振武軍ノ所属砲兵ヲ將末附京
 軍隷下ニ入ルモノト察セラル
 五、以上ノ外總豫備左ノ如シ

〇 324 (六千)
 〇 46A (六千)
 〇 60 (五千)
 〇 暫 (八千)
 23000

三、北伐能力

今次檢閱ハ檢閱委員ヲ設ケ逐次各軍ニ就テ實施シタル爲各
軍ハ自ラ軍容ヲ整頓ヲ行ヒ且兵器ノ充實ヲ計リタル爲稍面
目ヲ新セルカ如シ

北伐能力如何ハ只軍費準備ト蔣介石ノ決心ニ繫スリ

軍費ハ財政部ニ命シ一千萬元ノ調達中ナルカニ五國庫券ヲ發
行ニ依テ其大部ヲ得ントスルモノ、如キ又煙酒稅其他ノ雜稅ニ
依テ多少ヲ得ラルヘシト傳フルモ恐ラク意、如クナラサルヘシ

現在政府及中央黨部ハ其組織完了セサル爲政府軍事

委員會、中央黨部、總司令部ノ各部ニ要職ヲ占メタル

蔣介石ハ連日會議ニ日モ之足ラス加フルニ宋子文等ヲ中心

ト充英米留學生ハ閥門(宋美齡)ヲ利用シテ蔣ノ日本留學

生閥中心主義ト親日政策ニ肉迫シ又丁惟汾ノ如キ共

蔣介石
南方ニ在リ
地位

產黨ノ疑濃厚ナル分ハ陰ニ國民黨崩壊ノ機會ヲ窺
ヒ更ニ廣東派ハ蔣ノ行動ヲ冷眼ヨリテ觀望シ失態ニ乘
シテ汪精衛ヲ擔ギ上ケ再ヒ廣東左派ヲ以テ指導權ヲ恢復
セントスル野ハ抱藏ニアリ斯ノ如ク蔣ノ任務ハ軍事以外ニ於テ
過重ノ嫌アルミナラス若シ之ヲ拋擲シテ軍務ニ專心セシカ
忽ケ自己ノ勢力ヲ根底ヨリ覆サルル恐アリ彼カ北伐ヲ躊躇
シタルハ實ニ此後方内部ニ於ケル危險性アリトス

四、對北方謀略

北伐再興カ盛ニ宣傳セラルルニ拘ラス内部ニ於ケル事情ハ前
述ノ如ク從テ謀略ニ依テ目的ヲ達セントスル言面ハ繼續シテ行
ハレ北軍買収(軍官二十元、士兵十元)ニ依テ多少ノ投降者
アリ又密カニ北方將領ノ勸誘ヲ爲シ其效果アルヲ傳ヘラル
孫傳芳ニ對シテハ孫ト間諜山ノ妥協運動ニ加入シテ局面ヲ轉

換セントスル策アリ過般南京側及孫傳芳側ノ代表密カニ
両者ノ妥協ヲ議セシモ孫ハ對等ノ協定ヲ欲シ南京側ハ事實
上孫ノ投降ヲ強要スル成リ見ス而モ今次奉軍ノ攻勢稍
轉ニ連戰シ孫軍亦之ト協同作戰ニ出ツルニ於テ南京側
ハ到底彼ト休戰乃至妥協ヲ實行スルノ不可能ナルハ察ス
ルニ難カラス一部ハ馮軍ノ將來ニ疑懼ヲ抱キツ、アリト
雖モ西北軍ニ好意ヲ寄スルモノモ亦斯カラサルヲ以テ西北軍
對奉軍ノ戰鬥開始セラルルトモハ南京軍亦北伐ヲ南
始スルモノト思ハサルヘカラス

五、重要職員表

(1) 國民革命軍總司令部

國民革命軍總司令
總參謀長

蔣中正
何應欽

司令部辦公廳主任

參謀處長

副官處長

軍法處長

經理處長

總參議

行營總參議

行營副官長

警衛團司令

註

以上內

徐樺陳紹英

陳誠

陳誠

陳誠

留學生十

參議十名中

四五名

高級

參謀

三乃至四名

同右

吳恩

葛敬恩

張希騫

徐樺

劉紀文

何成濟

張君

陳紹英

陳誠

戰地政務委員會

主席

委員

蔣作賓（日本士官學校）

兼民政處主任 仇教鰲

兼行政處主任 陳家棟

兼交通處主任 趙世暄（高工）

兼司法處主任 林耆仁

兼外交處主任 蔡公時（京大法學士）

秘書長 王兩相

秘

國民政府ハ左記報告ヲ接到セル旨發表セリ
 北平駐在ノ記者ハ發覺ヲ防ク爲日本兵ニ變裝シテ天津ニ入り市内
 ニ騷擾ヲ起サント企テツツアリ日本ハ北軍ノ關外驅逐ノ爲
 攻勢ヲ取り進軍中ナル國民軍ト事ヲ構ヘンカ爲唐山方面ノ兵力ヲ増
 加シツツアリ

天津ヨリ

北平駐在ノ記者ハ發覺ヲ防ク爲日本兵ニ變裝シテ天津ニ入り市内

本報紙六

電信寫

(分類) 46.1.5.1-2



昭和3 二八一 一 略

本省

三月廿二日 移着

亞

田中外務大臣

第四一號ノ一

往電第三八號ニ關シ

今回李濟環ノ南京行内情等ニ付テ省政府筋ヨリ出テタル情報左ノ
通

最近相前後シテ來應セル戴天仇及朱家驊ハ蔣介石ノ内命ヲ帶ヒ浙
江派ト廣西派トノ妥協條件ヲ李濟環ニ提示シタルカ陳銘樞亦極力
調停ノ勢ヲ取レル結果李濟環ニ於テモ蔣介石ノ意ノアル處ヲ諒ト
シ妥協條件ヲ全部承諾シ今回南京政府ノ出府命令ニ應シテ特ニ陳

森田總領事

三月廿二日 移着
森田總領事



161530

0420

記

錦標ト共ニ當地ヲ出發セリ

前段
全南妥協條件左ノ如シ

一 北伐軍々費ハ責任ヲ以テ廣東省政府ヨリモ供給スルコト

二 廣西派ハ西山派分子ト手ヲ切ルコト

三 蔣介石ハ汪精衛派一派ト政治關係ニ於テ手ヲ切り只汪ノ面子ヲ

保タシムルニ止マル事即チ汪ニ政治軍事上ノ實權ヲ與ヘサルコ

ト

四 蔣介石果軍隊ヲ廣西派ノ勢力範圍ニ入レサル事（斷ク）

電信寫

(分類 46.15.1-2)



昭和3 二八〇二 暗

廣東 本省

三月廿二日 後將

田中外務大臣

第四一號ノ二

森田總領事

右妥協條件第二項ノ密約ニ基キ四山派ニ屬スル胡漢民系ノ人物ハ
省政府ヨリ最近全部罷免セラレ數日來當地ヲ去リツツアリ右妥協
ニ依リ從來兩方政界ノ一大暗流タリシ浙江派討廣西派ノ軋喘ハ先
ツ一段落ヲ告ケタル次第ナリ尤モ御都合主義ノ支那ニ於テ妥協
カ果シテ何處迄兩派ノ協調ヲ保タシムヘキヤ疑問ト懸料セラル
因ニ李濟環ハ今回南京ニ至リ北伐計畫北伐軍費遂全問題廣東廣西
兩省ノ建設問題其ノ他兩廣軍界ノ人事問題等ニ付テ蔣介石ト商議

和內亂軍
小民軍ノ北伐軍

ノ上第二機關位ニテ總領シ度ニ必要ニ應ジ得ル者ヲ選ビテ之ヲ
ヲレスト云フ

在支公使、上海、南京へ轉電シ漢口、蕪州、鎮江へ電報ヲリ

軍令

第一號

昭和三年四月十日 陸軍省

公訓第五九號

昭和三年三月二十日

在 兵 部

陸 軍 省 訓 令 二

外務大臣別府 田 中 義 一 殿

陸生省發給改組ニ關スル件

陸ニ西征軍ト陸生省發給トノ訓ニ妥協成立シ陸軍ハ當該ヲ訓令セテ
 陸軍訓令表トナリ將後策ヲ講スル為メ陸軍訓令ト共ニ米ヌシタル次第ハ
 既電報告ノ如ナル處共後任請白銀購トノ訓ニ改組ニ關スル訓令ト出ル
 仙第八軍及奉天仙ハ國比年軍第十二師團新編ニ新仕セラルル第十七軍
 第三十六軍ヲ統率スルコトナリ第十八軍及奉天ハ第十二軍及奉天
 又舊第八軍第二師及奉天ハ第八軍及奉天新ニ仕付セラレタル次第ニ

612.22

ノ二名ニ付テハ車取ヲ遣キ高等顧問トシテ一人二萬元宛ノ支給ヲ受ケ
タル上日本軍艦ヲ見ルコトニ決定シタルヤニ傳ヘラレ始タル處ソレカ
アラヌカ今般鋼興ハ下野ノ地電ヲ設シ舊縣下金部ヲ第一師々放散ニ
購リ唐三十六車取トナリ自ラハ一編隊ノ資格ニ附ルヘキ旨宣明セリ
阿健ニ謝シテハ阿フレ目下剛備中ノ將領百餘ニ於テ何等決定ヲ見ルヘ
キ答ニテ之等改組セラレタル剛備兩軍ハ往電第二一號ニモ述ヘタル如
リ金部北伐ノ第一線ニ立ツヘキ模範ナルカ曾テ張作霖トハ一服和地ス
ルトコロアリト稱セラレシ趙生智備隊トノ彼等カ河南邊リ迄進山ノ説
ニハ今大案外ニモ罷カリシ趙生智ノ降伏ト趙生智ノ再起説ナトニ願ミ
何等北伐進展途上ニ一大變局ヲ演山スルヤモ測ラレス

右側ニ考証補正ス

本報編者先。在文公使。上海。漢口。鄭州等

在長沙領事館

電信寫

(分類 46.7.5. 1-2)



昭和3 三一一六 晴

廣東 本省

三月三十日前着

發

田中外務大臣

第五一號

往電第四一號及在上海總領事發外務大臣宛電報第一八四號ニ關シ
李濟環ハ南京ニ於テ廣東省北伐軍費負擔ヲ協定シ左ノ通一昨日省
政府ヘ電命セル趣ナリ

第一回送金額ヲ二百萬元トシ内四十萬元ヲ共産黨暴動被害救済費
トシテ差引キ第二回ヨリ毎月北伐完了迄百二十萬元ヲ送金スヘシ
在支公使、上海へ轉電シ漢口、南京、天津、香港ニ略送セリ

森田總領事

廣東省長公署

三河豆馬ト云

電送第 2070 號 興
 2079
 日 3 月 3 年 時 分 發

電信局長 兼 電報局長

主 情報部長 主 任 情



臨時局ニ關スル件

宛 在英、在米、在伯各大使
 在浦潮、在新嘉坡各總領事

略 令 第 六 九 號

「支那情報」

一、北軍ハ山西及津浦方面ニハ守勢ヲ執リ河南ノ馮玉祥軍ニ對シテ

極的攻撃ヲ加フルニ決シ張學良ヲ以テ京漢線方面ヨリ精玉環軍ヲ

以テ大名方面ヨリ孫傳芳軍ヲ以テ濟寧方面ヨリ進軍ヲ開始スルコ

名 込 録

田 中 大 臣

線

軍

3

トトナレリ南京政府モ鎮リニ北伐軍ノ動員ヲ行ハ津浦線方面ハ徐州
ヲ中心ニ中央ニ劉峙、右翼ニ陳調元、左翼ニ賈耀勳ノ諸軍ヲ配置シ、
又渤海沿線ニハ方振武軍、後方ノ守備ニハ錢大鈞、方振武ノ兩軍ヲ
配シ更ニ江西ノ朱培德軍廣東ノ羅培南軍モ北伐ノ爲移動中ナル也
容壯ナルモノアレキ目下軍費ノ調達ニ勢ノツツアル有様ニテ急ニ政
勢ニ出ツルノ氣配ナシ

二、湖南軍ハ其後武漢軍ト停戦ノ妥協成リ金部改組ヲ見ルニ至レル

兩湖ノ善後問題ニ付テハ程潜、白崇禧等ノ諸將二十四日ヨリ長沙
會議中ニテ結局武漢軍ノ一部及元ノ湖南軍ヲ北伐ニ参加スルコ
トトタル模様ナリ。

三、廣東ノ李濟琛ハ三月初内地訪問ノ英國公使ラムプソン見送ヲ兼ね
香港ニ赴キ香港總督「クレメンチ」ハ之カ答禮トシテ九日廣東ヲ訪
問シ非常ナル歡迎ヲ受ケタルカ此ノ方面ニ於ケル英支間接近ノ傾向
顯著ナリ尙李濟琛及陳銘樞ハ蔣介石ノ招電ニ依リ廣東ヨリ十九日上

海ニ着シタルカ右ハ浙江波ト廣西波トノ協同ノ爲ナリトノ觀察行ハ
レ居レリ。

(合 第 46 / 5 / 1-2)



南滿洲鐵道株式會社東京支社

寫

支社長 30

電報 譯文

第一課

支社長宛 上海事務所發

昭和三年四月二四日午後

五時三十分發
八時一七分着

戰況引板々南方ニ有利ニシテ、此際日本トノ間ニ紛擾ヲ醸ス
ハ極々不利益ノ件フヲ考慮シ、出兵ニ對シテハ主權侵害ノ虞
味ヨリ政治的ニハ飽クマテ反對ヲ爲スヤ經濟絶交等ノ舉ニ出
ツルコト無キ故南京政府ヨリ當地各團體ニ内藏アリタル懸ニ
テ目下ノ處對日關係狀無ク市場至ツテ靜穩ナリ。

支社長宛
上海事務所發
昭和三年四月二四日午後
五時三十分發
八時一七分着

原部三局

第一編 甲 7

記録

昭和三年四月廿六日

公報第七四號

昭和三年四月九日

在長沙

領事館 第二



外務大臣對 山中 義一 殿

賀對艦ノ死刑決定ニ關スル件

過般武火ニ於テ軍費強要ノ趣ニ依リ武裝艦隊進軍ノ為メ其ノ所屬ヲ或
 裝解除セラレタル賀對艦ハ（九江領事館被其大兵宛電報第九號所報）宛
 組地ニ押送セラレタルカ組地軍事委員會ニ於テハ賀ヲ軍法會議ニカ
 タルコトトナリ各月末陳嘉佑ヲ審判委員長ニ擢列（湖南宣撫使）及軍
 明徴（第六軍第十七師長）ヲ審判官ニ其他檢察官、書記ヲ任命シ特別
 法庭ヲ組織シ取調ノ結果賀ニ於テ抗命演說第一々承認セタルヲ以テ其

在長沙領事館

(E 説用紙)

後引續中法條ニ照シテ附次ノ審訊ヲ經テ判決ヲ下スヘキ順序トナリ居
リタルトヨロ本月七日ノ湖南報此日報ハ本會ニ照シテハ湖南ニ於テ
一並ノ被害アル由ナルモ紐白附新報ハ既ニ實ノ罪ノ大ニシテ應ニマレ
ルヲ認メ居ルヲ以テ近々死刑ニ處セラルル管ナリト報セ居レリ
右何等御参考迄報告ス

本報爲運附先、在支公使、上海漢口九江各領事官

AT. 1.5. 1-2
610.005.01

陸軍省



第一課甲



昭和三年四月拾日

陸



同文

昭和三年四月十日

電報

四月九日午後六時五十分



參謀次長宛

支那公使館附武官

支那七號(其一二)

戰況報告

敵軍總攻撃令ハ未タ下サレシ模樣ナキモ全線ノ右軍ハ眞面目ナク攻撃ヲ開始シアルト確實ニシテ昨八日戰線ヨリ歸來セシ張學良及其他信スヘキ要人ノ言ヲ綜合スルニ各方面ノ戰況概ネ左ノ如シ

一 正太鐵道方面 奉天軍ハ平山、獲鹿、陣地ヲ占領後引續キ升陞ニ前進シ五日遼ニ其一部ハ中陞ニ進入シ山西軍ハ中陞西方方面ノ本陣地ニ進軍中ナリ

返却セリ



161530

0434

奉天軍ハ山西軍ヲ娘千圓ニ壓倒シ東進中ナリ
二對ノ右側ノ安全ヲ計シテ要ニ攻撃ヲ行ハシメ
一京漢線方面 津河北岸ニ攻撃ヲ準備シ奉天軍
在六鐵道方面ノ有利ナル戰況ニ伴ヒ六日攻勢ヲ開始シ
日軍大部ハ津河ヲ渡リ南進中ニシテ馮軍ノ騎兵一大隊
ヲ捕獲シ目下盤樂鎮ノ線ニ進出中ナリ(原厚意)
馮軍ハ彰德ノ陣地ニ退きセシメノ如シ
一太原方面 京漢線方面ノ攻撃開始ト共ニ六日南進
ヲ開始シ七日南軍ヲ攻撃中(一説ニハ既ニ南樂ヲ占
領セリト傳ヘラル)

一山西北部方面 本月初以來繁峙及雁門關方面ニ於テ若
干ノ戰鬪アリシ模様ナルモ大ナル進展ヲ見サルカ如シ
關東 天津 朝鮮 上海 奉天 吉市 瀋

A. 1. 15. 1-2

612.005-8

外務省

秘

亞細亞

電

報

參謀

次長宛

上海

重慶中佐

上海電第ニニ三號

在徐州估々水中伏電（五日發）轉電 楊杰ノ作戦

談ニテ彼ノ口吻ニ依リ觀察スルニ前電ノ如ク有力ナル部隊

ヲ津浦線以東ノ各道ニ集メ主力ハ津浦線ヨリ前進

セシメ泰安ノ陣地以南ニ於テ勝敗ヲ一舉ニ決セントス

ルモノ如シ攻撃開始時機ハ尚暫時ノ餘裕アルカ如レ

北京、天津清

第一張甲

中山

昭和三年四月拾日發

昭和三年四月十日

四月九日午後二時 三四 著發



161530

0436

以上各軍既集中第一
警衛師、古振旅、牙三四（阮玄武）、
第四四（葉南龍）、第四三（李榮）、牙四七
（葉）高桂滋

出京師

亞細亞局

第一線甲

乙山

昭和三年四月拾壹日發

秘

報

昭和三年四月十日

四月九日午後八

二〇著發

參謀次長宛

上海 重藤中佐

上海電第二二二號

在徐州佐々木中佐電(五日發)轉電

楊杰ノ談ニ依レハ

孫傳芳ハ濟寧附近運河ノ線ニ兵ヲ集結シ其警戒

線ハ郛城、鉅野、金鄉、魚臺ノ線ニ在リ不決斷ノ彼ハ

恐ラク攻勢ヲ採ルコトナルヘシ又之ニ對スル西北軍ハ孫

良誠、石友三ヲ第一線トシ彼我ノ歩哨線ハ八乃至十吉米

ヲ隔テ、韓復榘ノ約三師ハ第二線トシテ曹縣ニアリ外ニ

騎兵約八千ヲ定陶(曹縣北方約十吉)ニ集結中ナリト馮玉祥ハ

曹縣ニ來リ督戰スヘシト云フ

北京、天津清

S

161530

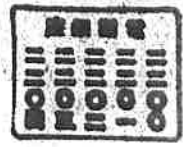
0439

46151-2

RENGO SERVICES

信 通 合 聯

(行設社合聯開新)



外信 第三十二號 昭和三年四月十日

◎吉村省民は戦作線に便恵つかし

奉天十九日自聯會 支那情報局に下達するから發行入國の途にある吉村
軍は後方大向方面の戦線へ向ふと傳してあるが實は今次の戦局急激な
落の徴ありと早く見取つた吉村省民が山岳山地で戦線を設ける戦作
線に伴れ歸す爲だと聞はれて居る吉村省民は費つて戦作線の野営官人
に吉を屬めた事實あり最近戦作線の吉村省軍費總管に際し省民は親も
不備で戦作線には既に見限りをつけて居ると。

後 八。三五 不

あま

(B)

分類 6.6.6 1-2)

館事領本日京南在

普通送第九八號

昭和三年四月十日

在南京

領事岡本一



外務大臣岡田中義一殿

強制拉夫ニ関シ報告ノ件

南京國民政府ハ北伐軍ノ開戦準備ニテ軍兵ノ補充及軍役
夫ハ必要ヲ感シ政府並軍總司令部ノ命令ニ依リ四月六日ヨリ九日迄
四日南南京市内江寧縣及江浦縣ノ三ヶ所ニ於テ一千名ノ軍役夫
ヲ強制徵募ヲ爲シ豫定數ニ達シタルヲ以テ直ニ北伐前線ニ

在 南 京 日 本 領 事 館

送ミタリト云フ各方面ノ怨嗟ミ一時中止シ居テ北軍トノ戦況ニ
因リテハ尚強制拉夫ヲ為スヤモ計リ難シ今因ハ知人使用支那人
ニ強徴サレタモノナキモ各知人ニ注意ヲ為シ使用支那人ニ知人雇人
票ヲ携帶セシムコトニミタリ
右帝参考迄報告ス

本信送付先

在 公 使 在 上 海 總 領 事

編者附言

寫

支那地方政況手帳
中支政況より

機密往信第七八號

昭和三年四月十一日

外務大臣男爵幣原喜重郎殿

江西政情ニ關シ報告ノ件

在九江領事大和久義郎

江西軍ノ北伐參加問題ハ已報（三月十八日附往信第六一號及往電
 第一〇號參照）ノ通り客月二十六日當地出發ノ第三軍第八師（師
 長朱世貴）ヲ先發隊トシテ愈々實現セラルルニ至リ爾來陸續招商
 局汽船ニ依リ下江中ニテ已ニ右第八師及第三十一軍第二十八師（
 師長章枏）ハ全部出動ヲ完了シ續軍北伐前線總指揮タル第三十一
 軍軍長金漢鼎ハ四月八日當地發下江セリ

外務省



161530

0443

江西軍北伐前線總指揮
第三十一軍軍長金漢鼎

殘餘部隊第三軍第九師（師長楊池生）ハ目下南昌ニ集中シツツアレハ近々出動ノ運ヒニ至ルヘク右各部隊ハ一旦浦口ニ上陸シ全地ニテ總司令部ノ命ヲ待ツ筈ナリト

一、今次北伐出征ノ江西軍々費ハ客月省政府會議ニ於テ（イ）關稅附加稅ヲ擔保トシ省庫券百萬元ヲ發行スル事並ニ（ロ）鹽稅ヲ擔保トシ南昌總商會及鹽商ヨリ五十萬元借款スル事ノ二項ヲ議決シ捻出スル事トナリタルモ各方面ノ反對ノ爲メ結果拂々シカラス現在漸ク五十萬元ヲ籌出シ得タルノミナルヲ以テ殘餘不足分ハ向後省政府委員ニ於テ捻出ニカメ籌出次第送附スル事トナレリ

一、第五路總指揮朱培德ハ南京ニ於テ北伐後方事務ヲ管掌スル爲四月三日當地發下江シタリ其離職前省政府ニ對シ北伐事務ノ繁忙ヲ名

トシテ省政府主席委員ノ職ヲ辭シタキ旨國民政府ニ申出テタルカ
慰留セラレ結局朱培德不在中ハ省政府各委員力交互主席事務ヲ代
理スル事トナリ差シ當リ財政並一切ノ政勢ハ財政廳長實施之レヲ
處置シ軍務方面ハ第三軍長王均之レカ責ニ任スル事トナレリ

一、第三十一軍長金漢鼎ハ客年朱培德ノ第五路總指揮就任ト共ニ師長
ヨリ軍長ニ昇任セルモノナルカ未タ一定セル地盤ナキニ加工第三
軍々長王均ハ南昌ニ實勢力ヲ張リテ財政並ニ地勢上有利ナル地步
ヲ占メ居ルト共ニ朱培德トノ親戚關係ヲ嵩ニ着テ諸般ニ亘リ横暴
ノ振舞ヒアルヲ以テ從來兎角感情的疎隔ノ氣味アリ今次北伐軍出
征問題捲起前後ニ於テハ稍々危機ヲサヘ傳ヘラレタル事アリタル
カ朱培德トシテハ金漢鼎モ從來ヨリ同僚トシテノ交情アリ旁々先

敵軍ニ際シ極力双方ノ意思疎通ヲ計リタル結果瞭解ナリ北伐出征軍ノ總指揮ハ王均ノ峻拒ニヨリ金漢鼎ヲシテ之レニ當ラシムル代リ勢力ノ均衡ヲ考慮シテ王均軍ヨリ主力部隊ヲ出動セシムル事トセリ

一、斯クテ北伐軍出征後ニ於ケル省内治安ノ維持ニ付イテハ自然軍隊ノ佈置ニ移動ヲ生シタルカ其ノ概況左ノ如シ

(イ) 南昌及南潯鐵路線

第三軍七師（師長王均兼任）第二十及第二十一團ノ二ヶ團及獨立四ヶ團（第五路軍直轄）分駐警備ニ當ル

(ロ) 九江及其附近

九江警備司令ハ撤廢セラレ第三軍第七師第十九團（團長張學文）

警備ニ當リ第三十一軍參謀長譚光鵬右責任者トナル

(一) 西地方

第三十一軍第二十七師（師長楊如軒）贛鄉ヲ中心トシテ警備ニ當リ湘粵軍王許范ト相呼應シテ省境地方ニ跳梁シツツアル土匪ノ掃倒ヲ計ルコトトナル

(二) 南地方

獨立第七師（師長劉士毅）贛州ヲ中心トシテ警備ニ當ル劉士毅ハ舊李烈均ノ部下ニシテ其後賴世璜ノ下ニ入り賴師解散ニ依リ新ニ獨立第七師長トシテ省軍ニ附屬ス

(三) 東地方

第三十一軍第二十九師（師長周志群）撫州河口等ニ分駐シテ警

備ノ任ニ當ル

右報告ス

本信寫送付先

在支公使、上海南京漢口長沙各總領事領事

外務省



151530

0448

外務省

三
四
五

前后

一八
一一
一三
二二

一着先

第一遣外艦隊司令官

海軍次官
軍令部長

一、總論

重慶十日此良報

一、郭汝棟麾下旅謀反露顯以來楊郭間ノ風雲急ナルモ
、如ク郭ノ家族ハ九日重慶ニ避難セリト傳ヘラレ政客
、往來盛ナルモ、如シ、

ニ、今マデノトコロ當地軍隊ニ異狀ヲ認メズ劉湘ハ之ガ爲
四川ト擾乱ノ端緒トナラサルヤシ虞ト慎重ナル態度ヲ持
シツツアリト傳ヘラル

$$\frac{+}{B}$$

16.1.15.1-2

一連番一四七

宜昌十日保津報

一平三軍謝素謀長談

三十軍及獨立第八師十四日迄二信陽二回ヶ宜昌

日セハ水路漢口ニ向フ 独立第五師ノ三ヶ團近ク

次市ヨリ来リ 四十三軍留守部隊約一千ト共ニ宜

昌警備ニ當ル

二北伐費六十萬元ハ阿片及塩稅ニテ調達ノ見込

三若力ノ徵收盛ニ行ハ既ニ二千名ニ及ブ

之

三四二前一二三 利根

築遣外艦隊司令官

海軍次官
軍令部次長



十一日



161530

0450

鉅野

秘

昭和三年四月十二日

電報

四月十二日 午前七時十分發

陸軍次官宛

支那駐屯軍參謀

天電五六

九日鉅野發直魯聯軍某十五

軍某旅團長ヨリ其父張克瑤

宛電報ノ要旨(秘)

一劉志陸軍八克州ヨリ八日鉅野

二劉着該地附近ハ同日迄未

戰鬪ナク鉅野金鄉附近ノ黨

軍ハ土匪軍ヲ主体トシ給養裝

備共ニ粗悪ニシテ北伐ノ能力ナク

S

161530

0451

一般

曹州

當分護軍ニテ鉅野附近ヲ充分

ニ防禦示シ得ヘシ

二、馮軍約三千ハ曹州ニ在ルモ未タ

北伐ヲ開始セス大名附近モ亦平穩

ナリ

亞細亞局

第一編 甲

昭和三年五月五日

五月五日

公債第七八號

昭和三年四月十二日

在共抄

領事

補給處



外務大臣男爵 田中 義一 殿

賀對越ノ處刑ニ關シ續報ノ件

賀對越ノ死刑確定ニ關シテハ不取敢本月九日對公債第七四號ヲ以テ
及報告置タル處處意昨十一日銃殺ニ處セラレ體ハ上海ニ在ル遺族
ノ依頼ヲ受テ引取りノ爲メ來湘セル舊部下副官ニ引渡サレタル趣ナ
ルカ程聽得ハ特別ノ詮議ヲ以テ發給費四百元ヲ支給レタル上更ニ同
體ヲ郷里ヘ運搬スル爲メ特ニ漢口迄特別車購置一合ヲ用意シ發付ヲ
示セル由新聞紙ハ報シ居レリ尙宜事セラレタル同人等共ハ在リ共ニ

分類 16.15.1-2)

在共抄

（畢狀宣布文ニ依ル）

前獨立第二師ハ軍ニ随テ西征第六軍有翼機隊ニ編入セラレ第六軍ノ
 波江ヲ掩護シ協同擊敵ノ責任ヲ有シ居タルトコロ該師長賀國雄ハ事
 年一月二十一日總攻撃ノ時ニ至リ竟イニ該師全部ヲ關王橋ニ内々移
 動シ逆賊張爾鑫ニ遭遇シ敵軍敗潰シ某部武裝解除セラルルニ及ヒ該
 師長又所部ヲ率ヒテ崇陽通城方面ニ移動シタリ其後程總指揮ヨリ一
 再ナラス電報ヲ以テ該師ノ崇陽通城ノ駐紮待命方ヲ命シタルニ拘ハ
 ラス該師長ハ又俱所部ヲ率ヒ遠ク武穴ニ進シ同所ニ於テ稅收機關
 及商人ヲ壓迫シ四萬餘元ヲ強徵セリ、茲ニ於テ白總指揮ハ第三十師
 師長ヲ羅啓疆ニ飭シテ該師長賀國雄ヲ今捕シ當地ニ送ラシム云々
 因ニ賀國雄對廷ハ山東營縣人ニシテ年四十三歳
 右重ネテ御参考迄報告ス

本領寫送附先

在支公使

在上海

漢口

九江各領事官

在長沙領事官

三、四
一、二
前、后
一、二

北
市
署

在支公使館附武官



海軍次官
軍令部次長

卷

張作霖ハ此ノ數日來正太京漢兩方面ノ端戰
有利ニ著展セシニ乘ジ四月十日金山西北境正太
京漢直隸南部山東南西部津浦線各路ニ
對シ總攻撃合シ下セ

四月十二日

亞細亞局長



電送第 2482-2488 號

第 3 年 4 月 15 日 2 時 0 分 發

電信局長

主 情報部長

任 主

件 支那時局ニ關スル件

在英、在米、在伯各大使
在新加坡、在浦鹽各總領事

名 込 録

田 中 大 臣

令 第 七 八 號

「支那情報」

一、奉天軍ハ四月初ヨリ先ツ正太線方面ノ山西軍ニ攻撃ヲ加ヘ平山、

獲鹿及井陘ヲ占領シ山西軍ハ退キア娘子關ノ天險ニ據レリ。次テ奉

天軍ハ京漢線上盛州南方ニ於ケモ海軍ヲ追ヒテ若干進出セリ。

外 部 省

(原稿用紙等) 留

二、南京軍ハ其後北伐準備漸ク整ヘル模様ニテ蔣介石ハ後事ヲ南京ニ
在ル李濟陳延炯ニ託シ督戰ノ爲三月三十一日ヨリ徐州ニ赴キ四
月七日北伐ノ通電ヲ發シタリ之ニ對シ山東軍モ津浦線方面ニ軍隊ヲ
増加シ、張宗昌ハ前線觀察ノ爲南下スル等此方面モ戰機頓ニ動クニ
至レリ。

三、李宗仁ハ陳銘樞ト共ニ三月末南京ヨリ武漢ニ赴キ長沙ノ兩湖善後
會議ニ出席セルカ右會議ハ兩湖ノ軍事、黨務、內政、財政等諸問題

(原議用紙乙) 國語

ニ且リ決議ヲ通過ノ上四月四日閉會セリ。近ク李宗仁ヲ主席トスル
武漢政治分會及程潛ヲ主席トスル湖南省政府組織セラルル筈ナリ

(A6-157-2)

外務省

一遣第五師

次市十五日陸軍報

一独立第五師ハ白雲嶺ヨリ駐防地ヲ宜昌ニ余セ

ラレ十七日迄ニ全部出發當地ニ十九軍駐屯ス

ハント

二十日未だ独立第五師ハ民船ヲ徴發シ出發準備

ヲナシツツアリ

三水標ニ五カツテ

十三日

海軍次官
軍令部長

(中)

三四、一三
三二、五五
利根

第一遣外艦隊司令官



161530

0459

9

亞細亞局

秘

陸 同 文
電 報

昭和三年四月十三日

四月十三日午前 三、五、八 發

參謀次長宛

支那公使館附武官

支第一〇一號(其ノ六三)

陸軍處軍事課長ノ言ニ依レハ張學良ノ來燕軍狀報告ニ
依リ正太京漢兩方面ノ諸戰有利ニ進展シ且軍實ノ調達
モ略見込ツキタルヲ以テ一昨十日愈々總攻聲開始ヲ發
シセリト其内容ニ就キテハ詳細不明ナルモ各方面トモ
一律攻勢ニ出ツルモノナリト大要次ハ如シ

一、山西北部方面ハ從來ノ守勢作戰ヲ改メ積極的攻勢ニ出ツ
二、正太線方面ハ井陘ヨリ娘子關ニ向ヒ攻撃ヲ續行シ山西軍ヲ娘子
關以西ニ壓迫ス



161530

1.8. 0460



二、本溪鐵道方面ハ鐵道ニ沿ヒ前進シ速ニ新郷ヲ占領シ爾後遼陽線
ニ沿ヒ西南進シ洛陽ヲ攻畧ス

四、直隸軍ハ大名方面ヨリ南樂ヲ經テ先ツ東明方向ニ前進シ河北
ノ馮軍ヲ掃蕩後西南進シテ鄭州ヲ奪取ス

五、孫軍ハ曹縣ヲ目標トシ當面ノ馮軍ヲ撃退後先ツ歸德ヲ
次テ主力ヲ以テ蘭封ニ向ヒ前進

六、山東軍ハ利國驛及台兒莊方面ヨリ一舉徐州ヲ攻畧シ夏邑及清江
浦方面ニ前進シ蚌埠ニ向ヒ南方軍ヲ壓倒ス尚各軍長ニ對シ
受令後速ニ前進ヲ開始スヘク嚴命シ且軍部ニ兵器彈藥ノ補
給ニ關シ所要ノ處置ヲ命シタルカ如シ

軍事課長、近ク一大決戦ノ演出セラルヘキヲモテ、戰勝ヲ確信シテ、模
樣ナリキ、
關東、天津、朝鮮、上海、奉天、濟

46.1.5.12

秘

昭和三年四月十三日

四月十三日午前二時。分衆
主日午前。時七分著

陸軍次官宛

支那駐屯軍参謀

天津電三七

天津直隸兵工廠小銃彈製造所

ハ十日夜全焼近ク戦線ニ送付ノタメ

貯藏セル小銃彈三百萬發火藥全

部ヲ焼失シ死傷十數名ヲ出セリ

南軍攻勢準備ノタメ晝夜作業ニ

従事セル談敵ノ焼失ハ直隸軍ノタメ

影響御音少カラサルヘシ原因ハ過失ナ

ラニモ先般ノ火藥庫一爆發ト共ニ



161530

0462



党軍、
陰謀トモ
同セラル
目下探査中



161530

0463

6120058

(分類A6.65.1-2)

海防方面

外務

秘

亞細亞

陸同文
電報

昭和三年四月十三日

胃十二日午前
〇二〇五〇

參謀次長宛

天津軍參謀

在濟南酒井少佐電第七號轉電

青島渡瀬報告 海州ニ往復スル汽船、通報ヲ綜合スルニ

海州ニテハ南軍ハ民船ノ徵發ヲ開始シ海州北方潮河ハ

軍橋ヲ架設中ニシテ海州ニハ曹万順ノ兵約一万五千アリ石臼

所方面ニ異動ノ模様アリ

関東 北京 上海

昭和三年四月拾一日

一般

雷

0464

181580

外務省

161530

秘

電

報

昭和三年四月十四日

四月十三日午後八

五〇發

參謀次長宛

上海 重藤中佐

上海電第二三二號

在漢口永見少佐電第一四號(十二日發)

一佛祖界問題ハ佛國側ノ讓歩ト支那側民衆運動氣勢昂

ラサルトニ依リ解決ノ緒ニ就ケリ

二武漢派第十二軍ハ河南信陽ニ向ヒ移動ヲ開始シ第七軍第

十七軍之ニ續クト稱シアルモ未タ形式的ノ域ヲ脱セス

美

161530

0465

三、四、一四

七、一、二五

利根 著

第一遣外艦隊司令官

海軍次官
軍令部次長

一遣普一五三

上海十四日陸戰隊報

南京ヨリノ情報ニ依レバ

一十二日臨城以南ニテ南北兩軍ノ衝突アリ南軍不利死傷

者約一千名徐州ニ後送セラレ朝ヨリ晩マデ放置シアリ一部

ハ津浦線ニテ後送中

南軍ノ志氣沮喪シ殆ト統一ヲ缺キ蔣ノ幕僚亦異分子

多ク一致セズ一般ニ悲觀セラル

二孫軍ノ一部ハ濟寧ヨリ海州方面ニ向ヘルガ如ク蘭封ヨリ鄭

12. 46. 1. 5. / 12



州ノ鎮ニハ馬軍歸德ヨリ徐州マデハ方振武軍アリ、

十四日



161530

0467

外務

亞細亞

第一課甲

中山

昭和三年四月拾六日發

昭和三年四月十四日

四月十四午後八。五。著

上海 重藤中佐

電報

參謀次長宛

上海電第二三二號

在漢口永見少佐電第一四號(十二日發)

一、佛祖界問題ハ佛國側ノ讓歩ト支那側民衆運動氣勢昂
ラサルトニ依リ解決ノ緒ニ就ケリ

二、武漢派第十三軍ハ河南信陽ニ向ヒ移動ヲ開始シ第七軍第
十七軍之ニ續クト稱シアルモ未タ形式的ノ域ヲ脱セス

610.0050



161530

0468

127

6.26.1.1.1~

一、遺普一五一

漢口十三日野報

一、佛祖界事件ハ問題ノ共產黨員二名ヲ支那側
ニ引渡シ一段落

二、十三日迄信陽方面ニ北上セシ武漢軍ハ葉祺軍
ハ一師ノミ尚同軍殘部及三十六、十四、七軍續テ
北上スベシト云フ、

三、胡宗鐸ハ湖北清鄉督辦ニ陶鈞ハ同會辦ニ就

海軍次官
軍令部長

小遣外艦隊司令官

川根發
着

不

任シ省内、土匪ノ肅正ニ當ルベシトテ上、下、游ニ兵力
ヲ移集セシメツ、アリ、

十四日



161530

0470

161530 46.1.15/1.2

外務省

亞細亞局

三、四、一四、

前一二三〇

刊根着

第一遣外艦隊司令官

中山

海軍次官
軍令部次長

一遣普一五二

重慶十三日比良報

一楊、郭兩軍ハ依然涪州下流ニテ對峙セルモ一般ノ形勢ハ稍

緩和サレタルガ如シ

二英司令官十二日英船慶和ニテ重慶着

十四日

四

46.1.5.1-2



海軍次官
軍令部次長

一、遺骸密葬三〇番電

長沙十四日隅田報

南京政府十二日陳嘉祐ヲ湖南省政府主席ニ任命

セリ討シ陳ハ内心乘気ナリモ廣西軍ニ氣算シテ去就ニ

苦ミツツアリ 白ハ黨派ヲ超越セリ陳毅ヲ主席トナシ

一時ヲ切抜ケントスニ意志アレハ陳嘉祐ニ反対ナリトシ程ハ

内心之ヲ悦ガズ表面白ニ對シ歩調ヲ合セツツアリ

三、四、一五

右三一二〇 利根島
右七一一二 馬

第一遺外艦隊司令官



十五日



海軍次官
軍令部長

三
四
六
一
一
九
利
規
元

為遣外艦隊司令官

一遺書一五

宜昌十五日得津報

一、三十軍大部分引上、
獨立、第五師、十四、十五日

水陸兩路ヲ採リ当地著
印内敬言備ミ当ル

二、宜昌航務管理處卜協定七噸噸船料八百

弗ナルモ華陽丸ハ新灘ニテ五百弗ヲ徵集セ

- う
- ル

(A 2A 6.1, 54-2.)

三、海軍宿舍工事一週間休止ス十六日軍隊ノ移

動終了ト共ニ再興ノ見込

十五年



161530

0474

(分類) A6.1.5.1-~

秘

電

報

昭和三年四月十六日

四月十四日午後九時一五分發

參謀次長宛

上海 重藤中佐

上海電第二三四號

南京ニ於ケル十二日午後ノ情報ニ依レハ津浦線方面ノ戰鬪ハ相當激烈ナルカ如ク負傷兵陸續歸還ス其談ニ依レハ南方軍ノ旗色良好ナラス

北京 天津 濟

一般

言

精

記

外務省

亞細亞局長

海軍次官
軍令部次長

三、四、一六五

第一遣外艦隊司令官

利根 著

一遣普一五六

重慶十五日比良報

嘉陵丸兩戸警戒隊指揮官報

一、嘉陵上江、途風箱峽入口、黨溪對岸ノ土匪ヨリ射撃

シ受ケ警戒隊ニ名破片ニ由リ擦過傷ヲ受ケ我反撃

ニ依リ土匪一名倒レタルヲ目撃ス

二、涪州下流ニテ楊郭兩軍對峙シツ、アリ、

三、萬縣ニハ支那船三隻米艦 *Turula* 碇泊

四、支那國籍汽船ハ未ダ重慶ニ廻江セルモノナシ、十六日

(分類 46.15.12)



151530

0476

陸
同
文

昭和三年四月十六日

昭和六年四月廿七日接受

（和必）

電報

四月十四日午前
一
六一
二三
一五
著發

參謀次長宛

天津軍參謀

濟南電第八號

海州ヨリ青島ニ歸來せん船長等ノ語ル所ニ依テ海州方面ニハ第十七軍第三師アリシカ最近衛州ヨリ二個師到着シ近日中ニ北進ヲ開始セントスルモノノ如シ

海州 青島間ノ電信ハ九日ヨリ不通トナリ又海州ニ寄
港スル汽船ニ對シテハ嚴重ナル検査ヲナスト共ニ同地ニ滞
留ヲ許サスト
關東 北京 上海 清

612.0058

161530

0477

A.6.15/1-2)
612.0058

津浦

外務省

報

電

報

參謀次長宛

上海電第二三三號

南京政府要人ノ蔣介石來電ナリトテ語ル所ニ依レハ第一
軍(第一縱隊)ハ十日以來台兒莊韓莊ノ陣地ヲ攻撃シ
十日之ヲ台領シ臨城ニ向ヒ追撃中ナリト

北京 天津 濟

上海 重 少 滕 中 佐

四月十四日午後九時三十分發

昭和三年四月十六日

昭和三年四月拾七日發

吉

吉

要聞要聞

秘

長

電

報

昭和三年四月十六日

昭和三年四月十六日

四月十五日 第九一五號

參謀次長宛

在青島 酒井少佐

東京

電第三號

一、當地ニ於テ得タル諸情報ニ依リハ南方軍ニ三百八十日海州ヨリ
莒州ハ一（原文六字不明）ニ進入セルカ如シ

二、南京ヨリ來ル一連絡者ハ小官ニ語ル所ニ依リハ南方軍ハ有力ナル
一部隊ヲ以テ維縣、高密ニ進出ラシメアルコトヲ確信ス

ナリ

三、日照、諸城、青島警戒ニ兼ネテ濟南ヨリ四五千人ノ兵力ヲ輸送中ナルモ其大部
ハ元隊以テ部下タリシ陸殿臣兵ナルヲ以テ當地ニ在リテハ一般ニ其向背ヲ

自慢ヒツマアリ

四、森岡世宗領事ノ言ニ依リハ同地ニ於テハ元軍旅団ノ白部下横行シ南軍ノ來著
ヲ待テハアリト
天津上海等

告